聖ホセマリアの手紙 29番(聖ガブリエル 職について)

聖ガブリエル職について、すなわち、スーパーヌメラリ婚召し出しと、この世界と結ら生活と家庭を聖化するといての手紙。1959年1月9日付でDei amore(神の愛によって)という題名で書かれ、1966年1月初めて印刷に付された。

2024/05/13

ホセマリア・エスクリバー・デ・バ ラゲル

手紙29番(1959年1月9日)

ルイス・カノ 編

目次

解説

手紙

- ・キリストに基づく楽観主義
- ・人間を神化するパン種
- ・<u>聖ガブリエル職:社会全体にキリ</u>スト教的な意味を与える
- この世界のすべての活動をキリスト教精神で浸す

- ・聖なる全教会の関心事と責任
- ・平和と愛の種蒔き
- ・初代キリスト教徒の行動の仕方
- ・豊富な善で悪を封じ、真理を守る
- ・<u>あらゆる人間的活動の頂点にキリ</u>ストを置く
- ・市民としての義務を生きるキリス ト者の自覚
 - スーパーヌメラリの形成
 - ・旅人よ、己が道を歩め
 - 自由
- ・<u>市民としての権利と義務を遂行す</u>ることにおける使徒職
 - ・間断なく真理を告げ知らせる

・<u>あらゆる誠実な仕事は、キリスト</u> 教精神と使徒職によって方向づける ことができる

- ・奉仕の精神
- ・結婚は地上における神への道
- ・明るく喜びに満ちた家庭
- ・使命を果たすための大胆さ

解説団

聖ホセマリアはその生涯を通して、オプス・デイのカリスマとその歴史の中心的な側面を扱った「手紙」と呼ばれる一連の文書を書いた。手紙は親しい間柄における会話のような形式にこだわらない、愛する人に対して大切なことを伝える時のような文体で書かれている。

聖ホセマリアがこの手紙を書いた正確な時期は分かっていない。いずれにせよ、その時期が手紙に付されている1959年1月9日に近いことは間違いない。手紙は印刷された後、1966年1月21日に各国に送られた。

全集の編集にあたり29という番号が割り当てられたこの手紙は、聖ガブリエル職をテーマとしている。聖ガブリエル職とは、一般的に、青年期を過ぎ結婚の道への呼びかけを感じている人々の間で行われているオプス・デイの使徒職を指す。それはおそらく、今日オプス・デイの使徒職の中で最も広がりを持っている。

聖ホセマリアは、1935年から書き始めた「指針」の4番目に当たる「聖ガブリエル職に関する指針」を書いた1950年、このテーマを詳細に扱った。この「指針」は、スーパーヌメラリの在り方の法的な承認と密接に結びついている。聖座は、家庭的・

社会的な状況が許す限り多くの時間を使徒職的活動に捧げつつ、神に自らを完全に捧げるというスーパーヌメラリの在り方を真の召命と認めた^[2]。

1950年から1965年にかけて、世界は 大きく変化し、社会の急激な変革が 目前に迫り、それは人間生活のさま ざまな側面、第一に宗教的側面、そ れに加え倫理的側面や家庭的側面に も影響を及ぼしていた。聖ホセマリ アにとって「指針」の中ですでに言 及していた聖ガブリエル職の1つの 側面を強調することは緊急の課題で あり、この手紙ではその側面が強調 されている。それは聖ガブリエル職 の福音的展望は、個人の使徒職を遂 行することだけでなく、(少なくと も西洋において)神から劇的に離れ つつある世界にキリスト教的影響を 与えるという側面である。

この手紙が出た1960年代半ば、聖ガ ブリエル職は各国で大きな広がりを 見せていた。そのような時期にこの ような手紙があったことは、スー パーヌメラリを指導し形成しなけれ ばならない人々の形成に非常に有用 であり、また、この手紙で扱われて いる多くの側面に関する創立者の教 えを彼らに伝えるためにも有用で あった。夫婦間の倫理に関する問題 をはじめ手紙で扱われているいくつ かのテーマについての世論は1950年 以降大きく変化し、1966年当時は非 常に話題性の高いテーマであった。

聖ホセマリアは手紙の冒頭で、イエス・キリストによってもたらさの男女によってての男女には、例外なくすべての男女とを説明する。しなもしないであるにもかかわらず、多くのだったがであるにもかがず、悪が世に栄えらのであるとを指摘する。「キリスト畑に遺産である神が地上に造られた畑に

は、毒麦が生い茂っているのです。 毒麦、何と多くの毒麦があることで しょう」(3番)。この現実を前に して、無関心でいるのではなく、 エス・キリストの贖いに参加するる いた、かける。練粉の中のパン種の ように、ゆっくりと絶え間なく働き かけ、人を神に近づけることが必 なのだ、と聖ホセマリアは言う (1-9番)。

この偉大な使徒職的展望の中に、聖ホセマリアは聖ガブリエル職を位工がける(10-15番)。「聖ガブリエル職を世界のすべての活動を超れずの活動をで満たし、の大きれで満たし、の大きのがるに、効果的に貢献しまう」(10番)。これがエターをでもいる。聖ガラーの主観点である。聖ガラーの主観点である。聖ガラーの主観点である。聖ガラーのもでしての生活を対しての生活を対しての生活を対してのもとどまらず、目の命と光の結果として、キリストの命と地が表してはいる。

で地上の現実とその仕組みを生き生 きとさせ、活性化し、照らすことに つながるのである。このセクション において、聖ホセマリアはスーパー ヌメラリの召命について述べ、その 福音化と変容を促す力を強調する。 スーパーヌメラリは、あらゆる社会 構造と社会階層に属し、社会の指導 的立場から人生の最もささやかな岐 路において、人生そのものが提供す るあらゆる多様性に基づく様々な使 徒職を通して、キリスト教的な影響 を及ぼすことのできる人々である。 それゆえ、スーパーヌメラリの召命 の一部である社会における職業的召 命は重要であり、それは教会におけ るその他の使徒職との違いとなる。

中心部分(16-32番)は、聖性と個人的使徒職との関係を扱うことから始まる。続いて聖ホセマリアはこの手紙の主要テーマを発展させる。つまり、職業的活動と使徒職的活動は、個人の使徒職を実現するためだ

けでなく、より公正でキリスト教的 な社会を築くために融合されるもの である。それゆえ聖ホセマリアは、 世界を愛するよう、そして人間のあ らゆる活動や組織の中に恐れず「い る」よう諭す。神の敵を無責任に野 放しにしないように、同時に、とげ とげしく敵対することがないように 教える。「私の子たちよ、私たちの 振る舞いは、理解と愛情に満ちたも のであるべきです。私たちの態度 は、誰かへの反対を目指すのではな く、ましてや党派的なものでもあり ません。あふれんばかりの善で、悪 を封じ込める努力をすることですし (25番)。聖ホセマリアは、「すべ ての人に対する大きな愛、人々のあ らゆる種類の不安や問題に開かれた 心、差別や排他的な態度を知らぬ理 解に満ちた心」(26番)をもって働く よう、また「この世のあらゆる活動 をキリスト教的なものにし (…) 人 間の諸活動の頂点にキリストを据

え」(28番)るべく努めるよう諭す。

その後、スーパーヌメラリの形成の 特徴に光を当てるために、短いセク ションが割かれている(33-37 番)。その中で、とりわけ自由が強 調されている。それは特定のカリス マの同化においても、また職業的・ 社会的分野における取り組みにおい ても強調される。「私の子たちよ、 自由です。世俗の事柄に関して、オ プス・デイからの指示を決して期待 してはなりません」(36番)。各自 が、自分の良心に基づいて、その時 代の課題に対する最適な解決策を模 索するようにと聖ホセマリアは諭 す。教会には、聖職者主義に駆ら れ、この自由を理解も尊重もしない 人たちがいると苦言を呈する。

さらに38-42番では、男性、女性の スーパーヌメラリの使徒職の特徴を 打ち出している。それは、教会とし ての任務ではなく、謙遜に行われる べきものであり、市民の義務と権利 という領域において実現される(41 命は「全面的に世俗的な性格」〈41 番〉を持つため)。それゆえ、聖柄 セマリアは、倫理的に重要な活力を考慮に入れながら、キリス々の生活を形成する法フスト 響力を考慮に入れながら、キリを考慮に入れながら、キリを考慮に入れながら、も間活動やないない。必要性を再度 強調する。

協力者について短い言及をした後 (43番)、特定の使徒職、例えばマスコミを通して世論に福音のメッセージを伝えること(44-46番)、娯楽の使徒職、金融や経済・政治といった分野に入り込むこと(47-52番)に言及する。

最後の部分(53-58番)は、家庭生活と結婚にあて、避妊や離婚などが容認されつつあった時代にあって、 夫婦の義務を聖なるものとして生き るための基準を示している。自分自身の神の子としての自覚に支えられながら、与えられた召命に献身するよう諭す結びの言葉で締めくくられる(59-60番)。

手紙

【聖ガブリエル職について、すなわち、スーパーヌメラリの召し出しと、この世界と結婚生活と家庭を聖化するという彼らの使命についての手紙。1959年1月9日付でDei amore(神の愛によって)という題名で書かれ、1966年1月初めて印刷に付された。】

1. 私の愛する子たちよ、私たちは神の愛によって選ばれました。それは、常に若く新しいオプス・デイの道を生きるためです。この人間的かつ超自然的冒険は、地上に愛熱の火

を燃え上がらせようと切望された主に、キリストの共同の贖い者として 緊密に同伴することです。。

主は、十字架によって死に打ち勝 ち、人間に課された滅びの宣告を破 棄し畑、その御血という広大無限の 代価ですべての人を贖ってください ました。Empti enim estis pretio magno「あなたがたは(高い)代価 を払って買い取られた | 151。私たち は多大な代価で贖われたのです。例 外なくすべての人に、新しい命の可 能性、霊における再生の可能性、勝 利者として生きる可能性が開かれま した。その結果、次のように叫ぶこ とができるようになったのです。 「もし神がわたしたちの味方である ならば、誰がわたしたちに敵対でき ますか。わたしたちすべてのため に、その御子をさえ惜しまず死に渡 された方は、御子と一緒にすべての ものをわたしたちに賜らないはずが ありましょうか。 (…) わたしは確 信しています。死も、現在のも、現在のも、現在のも、現在のも、力あるものも、力あるものも、力あいるものものがも、たっとがあるものものといわない。これは、これは、ことを引きれば、ことを引きない。これは、ことのできたができた。これは、これにできたができた。これは、ことができたができた。これは、これにできたができたができた。これは、これにできたができた。これは、これにできたができた。これは、これにできたができた。これは、これにできたができた。これは、これにできたができたができたができた。これにいいますが、これにいいまが、これにいいま

2. 主は、国や民族、言語、個人の置かれた状況などの区別なく、すべての人に救いを提供なさいますがい、受け入れるようにと強要はなさいりません。人間の自由にお任せになりません。 盛大な晩餐に優しくお招きになるイエスに、habe me excusatum「どうか失礼させてください」 [8] と答えて、つまらない利己的な言いを認めさせようとするのです。

悲しいことではありますが、20世紀 経った今もこの世界にいるキリスト 信者は僅かで、しかもその中でイエ ス・キリストの真の教えを知ってい るのはごく少数の人だけです。何回 か話したことがありますが、信仰を もっていない人が世界地図を見なが ら悪意なく言いました。「ご覧くだ さい、東西南北を一。「何を見てほ しいのですか」と尋ねました。する と答えが返ってきました。「キリス トの失敗を見てください。何世紀に もわたって教えを人々の心に染み込 ませる努力をしてきたにも関わら ず、結果はどうですか?キリスト者 と言える人はいないのですし。

最初は悲しみに襲われました。しか しすぐに愛と感謝の念に満たされま した。主は、私たちを贖いのみ業の 自由な協力者にしようと望まれたの です。キリストが失敗されたのでは ありません。その教えとみ業は世の 中を豊かにし続けています。その贖 いは十分で有り余るほどです。しかし私たちを知性ある自由な存在として扱われます。そして神秘的な形で、私たちが身をもって(私たちの生活において)、「キリストの体である教会のために」「gi ご自分の苦しみの欠けたところを満たすようにと定められました。

贖いのみ業は今も進行中です。そし て、あなたがたと私はキリストの贖 いの協力者なのです。全生涯をかけ る価値があります。神のご計画の実 現を前進させるために、愛する心で 苦しむ値打ちがあります。贖いの協 力者として、世の贖いに手を貸す値 打ちがあるのです。このような思い を抱いて、あなたがたと私は神を称 える賛美の声を上げましょう。 Laudationem Domini loquetur os meum, et benedicat omnis caro nomini sancto eius「わたしの口は 主を賛美します。すべて肉なるもの

は世々限りなく聖なる御名をたたえます」「IDT]。

3. 私の子たちよ、主がご自分の国は この世のものではない肌と言われた ことを忘れてはなりません。人間が 自由を乱用するのを許され、収穫の 時までは、良い麦と一緒に悪い麦も 育つことを忍ばれたのです「112]。悪は なんと繁栄していることでしょう。 教会の揺籃期から、十二使徒の存命 中でさえ、異端や分裂がありまし た。初代のキリスト教共同体に対す る異教徒からの迫害、そしてイスラ ム主義、プロテスタント主義、そし て今日の共産主義があります。キリ ストの遺産である神が地上に告られ た畑には、毒麦が生い茂っているの です。毒麦、何と多くの毒麦がある ことでしょう。

聖なる都、新しいエルサレム(新しい天と新しい地)が天から下るまで [13]、「主の主、王の王、(…) 小羊 と共にいる者、召された者、選ばれた者、忠実な者たち」[14] と、獣と滅びの子に服従するものとの間の戦いは終わらないでしょう。彼らは「すべて神と呼ばれたり拝まれたりするものに反抗して、傲慢に振る舞い、ついには神殿に座り込み、自分こそは神であると宣言する」[15]のです。

キリストに基づく楽観主義

4. 私たちの楽観主義は、愚かで高慢なものでなく、現実に即したものです。それゆえ、世にある悪を無視することはできませんし、キリストによって急を要するこの戦いに召された、つまり主と共に愛と平和の麗しい戦いを戦い抜くように招かれたという責任を放棄することもできないのです。

随分前のことになりますが、あなたがたの兄弟たちに黙想会を指導していた時、当時の世界の状況に注目するよう勧めました。その状況は今も

あまり変わっていません。地上を素 早く覆っていません。つままり変わっていません。つまみでいく赤いきようではあらゆることをしました。それはあら僅かなった。をしているのではない。そしているのなます。というな生き方に傾いているのでます。 あまり変わっておいるのです。 を素 はいます。ということにはないます。 はいます。の人が、、獣のします。 はいているのです。

 はなく、この三つの波で表された危険は絶えず見られ、荒々しく勢力を伸ばしています。

5. あなたがたは、この現実に目を閉 じてはなりません。目を閉じること は、ゆるし難い怠慢だと言えるで しょう。こう言うのは、あなたがた を無気力で不活発な悲観主義に陥ら せるためではなく、キリストの聖な る焦燥感を持つようにと鼓舞するた めです。主は、最期の旅となるエル サレムへ向かって速足で使徒たちの 先頭を進まれます。Praecedebat illos lesus「イエスは先頭に立って 進んで行かれた| [16]。それは、主の 霊が絶えず急き立てていたあの「受 けねばならない洗礼」「エァァを受けるた めでした。

「このわたしが飲む杯を飲み、このわたしが受ける洗礼を受けることができるか」「IRIJという主の招きを感じたら、必ずpossumus!「できま

す!」「Imgと、断固として若々しく大胆な決意があなたがたの唇と心にあることを願っています。

オプス・デイにおける神の子は、い

つも神との親子関係に基づいて心の 平安を保っていますが、キリスト教 的でなく、ましてや人間的でもない 世界に対して、無関心をかこつこと はできません。というのも多くの人 が、この世において、自らの霊的な 成長を望むような状態には達してお らず、手で触れることができないよ うなことすべてにあまりにも鈍感に なっているからです。彼らの状態に は「この世の命のままに生き、霊を 持たない者 | アロリント う 聖書の言葉が 当てはまります。そのような可哀そ うな人たちにおいて、聖パウロの嘆 きが現実となっています。Animalis autem homo non percipit ea quae sunt Spiritus Dei「自然の人は神の 霊に属することを受け入れません | fzɪl。この可哀そうな人たちは霊的な

光が見えず、神の霊からくるものを 識別できないのです。

6. 文化と物質的進歩が信じられないほど発展した国々に目を向けましょう。技術革命により、物的な生活のレベルは目を見張るほど高くなんといます。科学研究は(神はなるでもとがいるはずなら、研究は真理でありた。なぜなら、研究は真理でありた。な程度に応じて、神に由来しずると導くものだからです。

しかしながら、現実はそうではありません。進歩にも関わらず、人間としていませんの表示が欠けられません。 は、人間としていませんが欠けられていたで、人間の生は、動物のようなのも、は、大としているができる時になるからです。 は、動物と異なる点から見れば、ある点から見れば、ある点から見れば、あるにない。 宗教とは獣になりたくない人間の最 大の反逆と言えます。

私の子たちよ、宗教的なレベルにお いては、進歩はなく、前進する可能 性もありません。すでに進歩は頂点 に達しています。頂点はアルファで ありオメガ、初めであり終わりであ るキリストです「227」。したがって、霊 的生活において何も発明することは ないのです。キリストに一致し、も う一人のキリスト (ipse Christus) になるように戦うこと以外にあり得 ません。昨日も今日も、そして永遠 に同じキリストを心から慕い、キリ ストによって生きることです。lesus Christus heri et hodie, ipse et in sæcula「イエス・キリストは、きの うも今日も、また永遠に変わること のない方です」[23]。個人的な聖性以 外に〈処方箋〉はないと、あなたが たに再三繰り返す理由が分かります か。これ以外にないのです。私の子 たちよ、これ以外にはないのです。

人間を神化するパン種

私たちの主である神は、多くの人が 逃げ去ってしまう中、パン種のよう に生地を活性化することができる忠 実な人を常に取っておかれました。

「残りの者が帰って来る。ヤコブの残りの者が、力ある神に帰ってくる。まことに、イスラエルよ、お前が海の砂のようであっても、ただ残りの者だけが帰って来る」[24]。預言

者はオリーブの樹をゆすった後、落ちずに残る実について語りました。聖パウロはローマ書でこうによって、ます。「現に今も、恵す」「図目ので選ばれた者が残っています」「図目のでは重かな人をパン種とした。あの聖なる男女のしたが、彼らの心には素晴らしいが、彼らの心には素晴らしいまきが主によって行われたのです。

8. オプス・デイが始まった頃、私は あなたがたの兄弟に、人数が少ない ことを指摘していました。そして確 信を持って彼らに言っていました。 「それでよい。向こうには大勢の人 がいると言うのですか。しかし私た ちは愛のうちに一致しています。と ころが、彼らは一致しているように 見えても、実のところばらばらに生 きています。なぜなら、彼らを一つ にしたのは憎しみだからです。憎し みは常に存在してきました。憎しみ は利己的な生き方から、創造主に反

抗する者たちの永遠なる戦いから生じます」。そして、言い添えていました。「もっと人数を増やしたいのですか。それなら、もっと良い人に私たちがなりましょう」。

9. 何年もの間、私は、この世をご自分の火で焼き尽くすイエスの情熱を考えては、神の愛に燃え上がっていました。心を激しく突き動かすあの

熱意は、内心に隠しおおせず、主と同じ言葉での叫びとなって表れました。 Ignem veni mittere in terram, et quid volo nisi ut accendatur?... Ecce ego quia vocasti me「わたしが来たのは、地上に火を投ずるためである。その火が既に燃えていたらとどんなに願っていることか。…お呼びになったので参りました」[27]。

私の子たちは皆、全力を尽くし、必要ならば犠牲を惜しまないという、大きな望みを持たなければなりま麻ん。それは、やる気を失い感覚を麻痺させてしまった人々の活力を蘇らせ神への奉仕に立ち戻らせるためです。それにはまず私たちが、misereor super turbam「群衆がかわいそうだ」[28]と叫ばれた主と思いを同じくし、周りにいる大勢の人々の愛情を持つことです。

オプス・デイにおいては誰も、動物 の群れのような、非人格化された大 勢の人々を見て、心を動かされずに 平気で生きることはできません。一 見無関心に見える人々のうちに、多 くの高貴な情熱、多くの可能性があ ります。イエスのように、すべての 人に仕えることが必要です。そし て、singulis manus imponens 「一 人一人に手を置いて」[29]彼らを生き 返らせ、癒し、彼らの知性を照ら し、意志を強めるのです。それは、 彼らが役立つものとなるためです! すると、ただの群れだった人々は戦 う人々に、高貴な王のために戦う親 衛隊に変わることでしょう。

今、オプス・デイは、祝福された野原の香に満たされています[30]。使徒職の実りを前にして、主が惜しみなく祝福されたことを感じ取るのに信仰は不要です。何年も前、主への感謝のうちに祈りつつ、私の故郷の次の歌を口ずさんでいました。「蕾

よ、つぼみ、もうすぐバラになるのだね。花開く時が近づいたよ。何かを告げるために」。私の子たちにしたがあるにして、本があるにしいバラを目前にしています。眠り込まずに、奮い立ち、イエス・キリストと聖なる教会に、努力を傾けた結果を摘み取る時です。

聖ガブリエル職:社会全体にキリス ト教的な意味を与える

10. 私たちの使徒職はすべて、人間社会にキリスト教的な意味を直接与えますが、聖ガブリエル職は世界のすべての活動を超自然的な意味合いで満たし、(それが広がるにつれて)人間社会の大きな問題の解決に、効果的に貢献していくことでしょう。

スーパーヌメラリの間には、あらゆる社会的な立場や職業や役目の人がいます。自己の身分や社会的な状況

の中で、「召し出しを十全に生き」、キリスト者としての〈完成〉 を目指す私の子たちによって、あらゆる環境や生活状況が聖化されます。

召し出しを十全に生きるというのは、主が求められるすべての事柄に対し、全力を傾けて寛大に応えるべく努力をするということです。責任あるカトリックの市民として、教会と教皇、そしてすべての人に惜しみなく仕えるということです。

大部分のスーパーヌメラリは結婚しています。彼らにとって、夫婦間の愛と義務は神的な召し出しの一部分です。オプス・デイは結婚生活を指しました。 召し出してあることを、 あていることを始めていることを始めている 30年以上も経ちました。 使徒れは私ではなく教会が定義したことです

[31])、結婚は召し出しとなるほど、 崇高なものです。私が「結婚はこの 世における神的な道です」と言うの を聞いて、自己奉献の生活と高貴で 清い愛は自分の生活とは相容れない と考えていた男女が、何と目を輝か せたことでしょう。この点に関して は、もっと後で話すことにしましょう。

11. キリストの弟子には、当時のあ らゆる社会階層を代表する人たちが いました。影響力のある人たちも、 市井の人たちも主に従っていまし た。度々、私はあの二人の弟子にあ なたがたが注目するよう促しまし た。律法学者で名士、おそらく最高 法院のメンバーであったニコデモ と、裕福で身分の高い、最高法院の 議員であったアリマタヤのヨセフで す。彼らは物静かで、公生活では良 心に従い、困難な時には決然と勇気 をもって大胆に行動したのです。こ の二人が今日生きていたら、オプ

ス・デイのスーパーヌメラリの召し 出しを良く理解することができたで しょう。

キリストの最初の弟子たちと同じよ うに、スーパーヌメラリは現代社会 のあらゆる所に存在し、これからも 存在するでしょう。知識人や商人、 専門職、職人、経営者や労働者、外 交官、田舎の人、資産家や文学者、 新聞記者や演劇界やサーカスの人た ち、スポーツ選手。若者や老人、健 康な人や病人。生活そのもののよう に、素晴らしい、組織化されない組 織です。真の「専門化」であり、本 物の使徒職です。なぜなら、あらゆ る(清く、品位ある)職業は、使徒 職となり、神的なものになり得るか らです。

私たちは、人間社会という相互の奉 仕の絡み合いの中に見られる職業や 任務、あらゆる社会条件、最も多様 な状況にいる人々に関心がありま す。これらすべての生き生きとした 相互関係に、キリストのパン種が行 き渡っていなければならないからで す。

12. 私の子たちよ、職業や社会的地 位に関して、一切の差別をしないこ とに注目してください[32]。私たちが (差別や階級主義的なメンタリティ なしに) あらゆる職業や社会的地位 の中に探し求める価値は、共同体へ の奉仕であり、そのことにより、社 会的にあまり評価されていない仕事 ですら、それを引き上げ、偉大なも のにすることができるのです。これ らのすべての仕事は、全人類の現世 的善に寄与します。そして、それら を完全な形で、また超自然の意向で 果たすなら(霊的なものにするな ら)、主の贖いのみ業にも協力する ことになり、すべての人々に自身が 神の子の大家族の一員であると感じ させることによって、彼らの間に兄 弟愛を育みます。

私たちは、誰をも現在いる場から引き抜きません。そこ、主の招きを受けたところで、各自が自分自身との置かれた環境、すなわち自分が自分がっている社会の一部であり自分が自るである。 で存在理由を与えてくれていません。 環境を聖化しなければなりません。 この点においても、私たちは初代いるがってもと同じ思いを持っているとのです。

買い取られたのです。人の奴隷になってはいけません。兄弟たち、おのおの召されたときの身分のまま、神の前にとどまっていなさい」[33]。

この世界のすべての活動をキリスト 教精神で浸す

13. オプス・デイへの召し出しを (神の恩恵の助けによって)、社会 のあらゆるレベルで、特に人間社会 の中にある活発な場、つまり密な社 会関係の出会いや交わりの行われる 場で働いている人々の間で探しなさい。

国や国際社会における指導的な地位 にだけ言及しているのではありませ ん。確かにそのような立場にいる 人々は、仕える精神を持つことによ り、真の平和と社会の本当の進歩の 保証であるキリストの要求に即した 社会を築くために素晴らしい善をな すことができます。

しかしそれだけでなく、私は、国よ りも小さな組織における、ポストや 什事、仟務についても言及したいの です。というのは、それらは、国や その他の共同体と同じように、また はそれ以上に、大切なものだからで す。これらのポストや什事は、その 性質ト大勢の人と接触できる手段で あるので、そこから、オプス・デイ における神の子たちの特徴であるべ き教理を伝えたいという絶え間ない 熱意をもって、社会の中にキリスト 教的な意見を形成し、その考え方に 影響を与え、人々の良心を目覚めさ せることができるのです。

それゆえ、市井の人々の生活において鍵となっている様々な職業に就く人の中から多くの召し出しが出ることに関心があると度々言ってきました。主ご自身が関心をお持ちなのす。つまり地方自治体の事務方や議会議員などの公務に携わっている人、教師、理容師、行商人、薬剤

師、助産師、郵便集配人、レストランのウエイター、家事手伝いをする人、新聞売り、店番をする人などの中から、たくさんの召し出しが出る必要があるのです。

私たちの使徒職は世界の隅々にまで 及ばなければなりません。私たちを 突き動かす愛と平和への熱意はすべ てに及び、細部にまでわたる私たち の仕事を通して、社会を形成してい る細胞とも言える人間活動の一つ一 つをキリスト教的な精神で生き生き とさせていくのです。あるスーパー ヌメラリが「私たちの精神|を輝か せないような場所があってはなりま せん。そのスーパーヌメラリは、私 たちの伝統的なやり方で、自己の聖 なる焦燥感をすぐに他者に移そうと 努めるはずです。するとすぐに、そ こにオプス・デイにおける神の子の グループが出来上がるでしょう。そ してこのグループが疲弊することな く、生き生きとしながら活動するこ

とができるよう、相応しい世話が (必要ならば訪問するための旅も厭 わずに)行われるでしょう。

オプス・デイのメンバーの多様性は 次のように理解できます。信仰とオ プス・デイの精神に関する事柄は最 低限の「共通分母」です。それゆ え、これらのことについて私たちは 自身のことを「私たち」と呼ぶこと ができます。その他のこと、つまり 現世的な事柄や神学的に自由に意見 を言える事柄は、広大で全く自由な 領域の「分子」です。ですから、そ れらについて、誰ひとりとして「私 たち | と言うことはできません。 「私」「あなた」「彼」と言うべき です。

14. 私の子たちよ、私たちの使徒職には「専門化あるいは特定化された目的」[34]がないことを、良く知っているでしょう。私たちの使徒職的活動には、あらゆる「専門」が存在し

ます。それは使徒職が、人間の生活 自体が提供する多様な専門分野に根 付いているからです。社会の歯車の 中で、人々が互いに提供し合う奉仕 を超自然のレベルに高め、真の霊的 な仕事にしていくのです。

ここ数世紀の間、活動修道会が(常 に外から)世に近づこうと使徒職を 「専門化」し、人間的な特定の什 事、教育や福祉活動などに、キリス ト教の精神を根づかせようとしてき ました。それは称賛に値することで す。とはいえ、しばしばそれは、ど ちらかと言うと、修道十・修道女の 固有の召し出しを具現化するためと いうよりは、カトリックの市民の自 主性の不足を補うためのものでし た。この自主性の不足は、彼らのキ リスト教的形成の怠り、または彼ら が社会をキリスト教化するという責 任感を感じなかったところから来る ものだったかもしれません。

しかし、修道者は「専門性」を求め るにあたって(それは彼らの召し出 しに固有なものではなく、あくまで 補足的なものです)限界に突き当た りました。人間社会の多くの領域 は、気高く清いものであっても、世 からの聖なる隔離によって奉献生活 の証しを世に示すという修道者の主 たる使命とは、決して両立できない ものだからです。さらに、最近の世 俗主義は(多くの国において、それ がいわゆるカトリックの国であって も)教育や福祉活動から修道者を追 い出し、あるいは(少なくとも)彼 らが宗教的とは厳密には言えない活 動に携わるのを制限しています。

オプス・デイの使徒職において、信徒たちは、不足を補うためではなく ほるは、教会における自らの使命を果たす場として神が指し示した特定の領域を、明確な自覚と責任感をもって、自分のものとします。その使徒職がどのように「専門化」されるか を予測することはできません。というのは、その使徒職は仕事とその社会的な役割と一体になっており、それゆえ様々な可能性に対して開かれているからです。また、その使徒職は、不動のものではなく、時間の経過と共に起こりうる、社会構造の変化に対して開かれているからです。

ここで、修道者が、「普通の世俗的 な職業における召し出ということは、非常に難しいとその 召出 といる を得ません。その おおば、修道者にはなられば、修道者にはなられば、修道者にはないないといることがで不自然なでである。このとのような条件下といるのとは、い級きと思われます。

聖なる全教会の関心事と責任

15. こういう理由から、私の子たち よ、聖なる全教会の関心事と責任 (sollicitudo totius Sanctae Ecclesiae Dei) は、私たちのもので あるということができます。教皇と 教区司教の公的な(法的な、de jure divino) 責任を支持しながら、私た ちは法的ではない、霊的で修徳的 な、愛から来る責任を持って、全教 会に仕えます。これは職業的な性格 を持つ市民としての奉仕で、キリス ト者としての模範の証しを生きなが ら、市民社会の隅々まで、主の教え を伝えようとするものです。

教会の一致に困難が生じた時、修道会などの全世界的な組織が決定的に重要な役割を果たしたことは、歴史が示しています。私たちは、修道者とは全く異なる召し出しを持つ、全世界的な組織です。また、いわゆる「使徒職的運動」(apostolic movements)と呼ばれている活動との違いを明確にする[35]、全世界的な

内的位階制を持っています。このことは、私たちを教会と教皇に仕える、結束力の強い、効果的な道具にします。

「あなたがたは、主に結ばれて、光となっています。光の子として歩みなさい。光から、あらゆる善意と正義と真実とが生じるのです」 [37]。私の子の生活が使徒職の実りを豊かに

もたらさないことは、偽り、二重生活、喜劇で、ありえないことです。 繰り返しますが、そういう私の子は 死んだも同然で腐っています。lam foetet「もうにおいます」[38]。そし て私は、(あなたがたがよく知って いるとおり)遺体は丁寧に葬りま す。

什事や職務の同僚や親戚、友人や隣 人との個人的な付き合いにおいて、 友情と親しい語り合いの使徒職で彼 らの心を揺さぶり、利己的でブル ジョア化した生活の視野を広げ、生 活をより〈複雑〉にしてあげなさ い。彼らが自分自身を忘れて、周り の人たちの問題を理解できるように するのです。そして、あなたがたが 経験したように、彼らの生活が〈複 雑〉になる時、彼らには、gaudium cum pace、喜びと平和がもたらされ ることを確信してください。

この使徒職(それはディレクターたちの教理的・実践的な導きによるので、無秩序なものではありません)を絶えず行っているなら、あなたがたの周りに、落ち着いた雰囲気が生まれるでしょう。そしてあなたがたの家庭において初代信者の家庭が再現されるのです。

黙想会・講演・サークルなど、オプス・デイが準備している共同のまたでいる共同の手段に、またが準備している共同の手段に、またではいるではいるではいるではではないではないではないでは、このがは、しているとが、しているとがです。というによっているとがです。 要な)手段だからです。

17. しかし、そこで留まってはなり ません。あなたがたの親戚や友人を これらの組織や機構が、人の命に関するキリスト教的な基本概念に沿うものとなるようにする努力は、非常に変更を与える使徒職神を与える使徒の精神にあるというによって、大きののでは、また多くのでは、また多くのでは、また多くのです。といるというです。

私が正義について話す時、この言葉を狭義にとらないでください。とうのも(人間が幸せになるには)に必要なものを機械的分という正義だけでは不行話してがらです。私は正義に基づきまった。をはしているというです。ではなるものです。を超えるものではなく、愛徳は機械的なものではなく、愛徳は機械的です。

平和と愛の種蒔き

18. それゆえ、社会で活動するにあたり、人々の間に対立を醸しだすというな言動は慎まなければなりません。キリスト者なら階級意識やすらとはしませたがあるためにもうではあいてるためにもではあいるとはす言動には唯物にのようではない。こうではないう言動には唯物にしたが潜んでいます。られ、仕事に大くなを磨く機会が与えられ、仕事に大くないの向上が図られるよう、

努力すべきなのです。また、憎しみ を避けるだけで満足してはなりませ ん。平和と喜びの種蒔きをすること が私たちの「共通分母」であるから です。

私の子たちよ、あなたがたが何であ れ什事を企てる時には、神の現存の もと、その企てを生み出した精神 が、キリストの精神に基づいている か否かを検討しなければなりませ ん。歴史的状況の変化により(それ は社会の構成に変化をもたらしま す)、ある時期に、正義に叶ってい たことがそうでなくなることを考慮 に入れましょう。というわけで、停 滞と壊滅を引き起こす惰性を防ぐた め、あなたがた自身が絶えず建設的 な批判精神を持つ必要があります。

19. キリストのために、あらゆる高貴な人間的な価値を、勝ち取らなければなりません。「すべて真実なこと、すべて気高いこと、すべて正し

いつの時代も、その時代を生き、その時代の構造と共に「ある」ので、あなたがたには、今日言われているような、aggiornamento(アジョルナメント、現代化)は必要ありません。というのも、あなたがたは常に、あらゆる時代の世界に対して理解と責任を伴った希望を持っており、一致と愛の心を常に持ちなが

ら、人間の自由と尊厳の価値が肯定 されるよう要求していくからです。

主は、私たちの召し出しによって、 被告物に対する肯定的な見方とキリ スト教固有の「世界への愛」を私た ちが表明することを望まれました。 あなたがたの仕事において、また地 上の国を建設することにおいて、決 して夢を失うべきではありません。 同時に、「肉を欲情や欲望もろとも 十字架につけた | 西キリストの弟子 として、すべてを人間の進歩と力に 頼る「キリストの十字架に敵対す る」[42]人々の偽りの楽観に対して、 罪と寛大な償いの意識をしっかりと 保つよう努めなさい。

このような人々は罪を忘れるという 重大な罪を犯しています。この世に は罪は存在しないと考える人さえい ます。一粒の麦は実りをもたらすた めには地に埋められ死ななければな らないということが贖いの計画の一 20. この深い謙遜(即ち、強さは戦車や馬という手段にではなく、私たちの神の名にこそあります[45])のうちに「恐れることなく」人間のあらゆる活動や組織に参加してください。キリストがそこに「いる」ためです。私は、私たちの働き方に聖書の、ubicumque fuerit corpus, illic congregabuntur et aquilae「死体のある所には、はげ鷹が集まるものだ」[46]という言葉を当てはめまし

た。なぜならば、万一、あなたがた 一人ひとりが、自ら思いのままに、 無精を決め込んだり、楽を求めたり して、社会の現在と未来がかかって いる仕事や決定に加わる努力をしな いなら、主なる神は私たちに厳しい 決算報告を要求なさるからです。

私たちの召し出しに非常に固有な点は、賢明に(賢明であって臆病でありません)、積極的に、物静かに、 目には見えなくても非常に効果的な行動をする天使たちのように、私 的・公的の多様な協会や団体に参加することです。それは、地域的なものから国際的なものまで多岐にわたります。

あなたがたが、会議や学会、展示会、科学者あるいは労働者の集会、研究会、科学・文化・芸術・社会・経済・スポーツなどのあらゆる種類のイニシアティブに参加しないのは許しがたい怠慢です。ときには、あ

なたがた自身が主催することがあることがあるの場合、他のよう。多くの場合でしょうのに参加するでものにものに参加するできたがあるが、受け身でであるが、受けりできながらできたができるがでいたがでいます。それは、大きの精神を吹き込むためでもいたがあり精神を吹き込むためでもいたができるという。

21. 個人として、グループを作らずに(あなたがたは皆、一人ひとして、サループを作らりりに(あなたがたは皆、一人で制しての事柄に関して制力であるといるのものです。とは私的ないないのものがならなが、のもいないのものがないないのものがないないないのものがないであるがあるがあるがあるいは多くの善あるいは多くのあるいは多くのあるいは多くのあるいは多くのあるいは多くのあるいは多くのあるとないとないがあるといるというであるいは多くのものであるいは多くのあるいは多くのあるいは多くのあるいは多くのあるいは多くのあるとないというにはいるというである。

めに活用され得るのです。すべては、団体を指揮する人やそれに着想を与える人にかかっているのです。

初代キリスト教徒の行動の仕方

22. 初代のキリスト教徒は上に述べたように振る舞いました。超自然の召し出しがあるからといって、社会的、あるいは人間的プログラムを持っていたわけではありません。し

かし、一つの精神に満たされ、人生・世界に関する一つの見方を持っていたので、彼らが活動していた社会に影響を及ぼさずにはいられなかったのです。

「私たちは昨日生まれたばかりである。しかるに、大きな都市や、 島々、村々、自治体、議会、兵舎、 民族、集まり、宮廷、元老院、広場 など、あなたがたのいるところは、 キリスト信者でいっぱいである。残されているのは、あなたがたの神殿だけだ」[49]と、1世紀が過ぎた後、テルトゥリアヌスが書いています。

23. 私の子たちよ、希望に満ちて元気一杯でいなさい。休まずに「平和や互いの向上に役立つことを追い求めようではありませんか」「500。「だれに対しても悪に悪を返さず、すべての人の前で善を行うように心がけなさい。できれば、せめてあなたがたは、すべての人と平和に暮らしなさい」「510。

Filii huius prudentiores filiis lucis in generatione sua sunt、「この世の子らは、自分の仲間に対して、光の子らよりも賢く振る舞っている」「527という主の嘆きを、自己を鼓舞するために、度々、思い起こしなさい。厳しい言葉ですが、とても的確です。残念ながら日々見られることです。

そうこうしているうちに、神と教会の敵たちは、組織づくりのために動き回っています。〈模範的な〉根気強さで幹部を育て、指導者や扇動者を育成する場を設け、それを維持し、密かに(しかし、効果的に)の考えを撒き散らし、あらゆる宗教的思想を破壊する種を家庭や職場に運んでいます。

私の子たちよ、今、マルクス主義は、様々な形で活発に活動しています。個人的に叫び声を上げるというよりは、体系的に、絶え間なく宣伝を続け、あらゆる宗教的な要素を批判し、無神論に科学的な根拠を与えようとし、地上的な信仰と希望と入れ替えようとしています。

私は、(教会が教えと両立し得ない考えとしてそれを幾度も排斥している)マルクス主義を歓迎するカト リック信者を理解できません。彼ら は、神の敵に手を貸し、自分たちと 同じように考えないカトリック信者 を敵だと考えます。他の信者を悪く 扱い、信者でない人々に見せかける 愛徳で接するカトリックは、大きな 間違いを犯し、正義に反していま す。彼らは偽の愛徳で誤ちを覆い しています。秩序のない愛は愛徳で はありません。

24. 私の子たちよ、「敵からの助 言 | [53]です。賢く、思慮深くあるよ うに。眠りに陥らないでください。 Hora est iam nos de somno surgere 「怠惰を振り捨て、眠りから覚める べき時ですしらる。かつて教会が栄え ていた地方が、今は、キリストの名 さえ聞くことができない荒れ野に なっていることを忘れないでくださ い。このような状況を、「歪んだ行 間にも真っ直ぐな字を書くのも神の ご計画のうちであり、そして最後に は神が勝利するのだ」と考え、その 失敗を正当化しようとするのは、安

易な態度です。キリストは常に勝利者であることは事実です。しかし、 多くの場合、私たちの過ちにも関わらず、です。

好戦的・攻撃的にならずに、in hoc pulcherrimo caritatis bello、この愛 徳の美しい戦いにおいて、思いやり の心で皆を歓迎し、(イエス・キリ ストを知らない人や愛していない人 が掲げる間違いに与することなく) すべての善意の人たちと協力しま す。同時に、主がこう仰せになった ことを忘れないでください。「わた しが来たのは地上に平和をもたらす ためだと思ってはならない。平和で はなく、剣をもたらすために来たの だし「551。人は容易にイエスの柔和の みに注目し、〈生活を複雑にする〉 よう駆り立てる神の言葉を避けよう とします。その言葉は、安楽志向や 順応主義の邪魔になるからです。

豊富な善で悪を封じ、真理を守る

25. 一般的に、私たちは、他者に真 実を告げ、真理を守ることが苦手で す。というのは、皆から歓迎される ように、誰かに嫌な思いをさせない ように努める方が楽だからです。私 の子たちよ、私たちの振る舞いは、 理解と愛情に満ちたものであるべき です。私たちの態度は、誰かへの反 対を目指すのではなく、ましてや党 派的なものでもありません。あふれ んばかりの善で、悪を封じ込める努 力をすることです。私たちの務めは 否定的なものではなく、何かに反対 することでもありません。肯定と若 さ、喜びと平和です。ただし、真理 を犠牲にしてでも、というわけには いきません。

私たちは各々の自由な人格を育むので、オプス・デイにおける神の子は、自分で考えることができる人です。一過性の熱狂を生み出す、流行りのスローガンやうたい文句を、何も考えずに受け入れるわけではあり

確かに、あなたがたはいつも、同時 代の人たちの考え方や習慣に沿さ 生きなければなりません。けれど も、おたがままないないる希望についる がたが要求する人には、いなけれて、いなける人にしず 説明をするようには、いなければなりません。 がたがたらなたがからない。 の弟子であることがかれません。 なたがたは、すでに社会の中にいる なたがたは、 のですから、順応する必要がないのです。順応に走る態度には、なんと感傷や恐れ、臆病に流される傾向があることでしょう。

26. 私の子たちよ、私の言葉の裏 に、すべての人に対する大きな愛、 人々のあらゆる種類の不安や問題に 開かれた心、差別や排他的な態度を 知らぬ理解に満ちた心以外のもの を、見ないでください。私たちを、 ひるまないように、すでに成し遂げ たことに対して常に満足しないよう に、栄冠の上に惰眠をむさぼらない ように駆り立てるのは(caritas enim Christi urget nos 「キリストの 愛がわたしたちを駆り立てている| [57])、恐れではなく(私たちは何を も誰をも、私たちの父である神をも 恐れません)、いつか私たちが、共 同の贖い者としての使命に関して、 主である神に報告をしなければなら ないという責任感です。

「怠らず励み、霊に燃えて」[58] 時間 を活用しなさい「59」。人生は短いから です。「今、時のある間に、すべて の人に対して、特に信仰によって家 族になった人々に対して、善を行い ましょう | 1607。この哀れな私たちの 世を愛で満たしましょう。私たちの ものなのですから。神が創造し、遺 産として私たちに与えられたので す。Dabo tibi gentes hereditatem tuam et possessionem tuam terminos terrae 「わたしは国々をお 前の嗣業とし、地の果てまで、お前 の領土とする上版記。可能なことは誰 にでもできます。そして私たちの主 なる神は、不可能だと思えることを 私たちが行うようお望みであるとい うことに留意してください。神はそ れを実現するための恩恵をください ます。

27. 理想主義に留まらず、現実主義者でありなさい。偉大な事柄、働くための広大な領域、多くの活動と可

能性を夢見ると、それらのことを眺めるだけで満足し、具体的な事

(hodie, nunc「今日、今」)を忘れてしまうこともあり得ます。これら 具体的な事柄こそ、いつの日か夢を 実現させ得るものであることを忘れ てはなりません。

この麗しい戦いにおいて、落ち着き を保ってください。不安に苛まれる ことは有害なことです。Corripite inquietos「怠けている者たちを戒め なさい」[62]とパウロはテサロニケの 共同体に訓戒しています。「聞くと ころによると、あなたがたの中には 怠惰な生活をし、少しも働かず、余 計なことをしているものがいるとい うことです | 「637。そして、義務を果 たすという唯一の手段を彼らに与え ました。すべきことをなし、してい ることに集中する時、神の偉大なご 計画を実現していることになるので す。使徒は続けて言います。「兄弟 の皆さん、主イエス・キリストの愛

に結ばれた者として、そのような人たちに命じ、勧めます。黙々と働いて、自分で稼いだパンを食べなさい | [64]。

あらゆる人間的活動の頂点にキリストを置く

28. 主は、あなたがたの夢と活気にあふれた絶え間ない仕事に、どれほど期待しておられることでしょう。度々、感情が伴わずやる気がたは出なくがあっても、あなたがたは、のような仕事によって、教的ですようと頑張っているのです。といるのです。

この仕事は、特に私のスーパーヌメラリである息子たちと、キリストの塩と光を自分の置かれた場所、つまり家庭や社会生活そして様々な職業にもたらすにあたり、(ときに男性

以上にたくましい)スーパーヌメラ リの娘たちのものです。

旧約聖書のあの場面、ユディトが敵 軍に街を明け渡す心積もりの民と指 導者たちの思いを変える場面を再読
 してください。聖書はこう言ってい ます。「人々が町の指導者オジアを 非難したことは、ユディトの耳にも 入った。 (…) それでユディトは、 (…) 町の長老のオジアとカブリス とカルミスを招いた。彼らがやって 来るとユディトは言った。『ベトリ アの住民の指導者である方々、どう かわたしの申し上げることをお聞き ください。今日、人々の前であなた がたが言われたことは間違っていま す。 (…)。 いったいあなたがたは 何者ですか。あなたがたは今日、神 を試みたうえに、神に代わって人々 の間に君臨しようとしているので す。今、あなたがたが瀬踏みをして いる相手は、全能の主です。いつま でたっても何も分かりはしないで

私の子たちよ、この良い精神を保つなら、使徒言行録にあるイエスの弟子に関する言葉が、あなたがたに当てはまるでしょう。「使徒たちの手によって、多くのしるしと不思議な業とが民衆の間で行われた」「EEI」。あなたがたによって、目立たないけれるとでしょう。

29. 仕事や社会における生活、そし て一般的に、現世に関するすべての 事柄において、一人ひとりは自由と 責任をもって振る舞い、素晴らしい 多様性を保ちつつ、いつも良心に従 いながら各自が意見を形成していき ます。その際、教会やオプス・デイ を巻き込まないでください。それは できません。というのも、あなたが たは「十全なる社会人としての考え 方 l (fully lay mentality) をもって おり、それゆえ、自由の友だからで す。そして、その自由はイエス・キ リストの教理と倫理によって定めら れた事柄以外の制限を受けない自由 です。

神の業(オプス・デイ)の目的と手段は現世的なものではなく、完全にそして専ら超自然的で霊的なもので す。オプス・デイは、人間的な関心事、政治、経済などとは無関係です。その本質上、地上の社会を超越しており、それゆえ、決して特定の 文化に錨を下ろすことも、具体的な 政治体制に結びつくことも、歴史上 のある特定の時代に繋がれることも ありません。

ときに、オプス・デイは組織として 使徒職的な事業を促進することがあ ります。それらの(教育、キリスト 教広報、福祉などの)事業は、すべ ての人に知られ、また、カトリック ではない人、あるいはキリスト者で はない人をも含め、すべての人に開 かれています。いずれも、各国の法 律の定めに従って運営されます。こ れらの事業は、教会の事業ではあり ません。なぜなら、それらは使徒職 的な本質と目的を持っているとはい え、専ら市民による職業的な活動だ からです。

市民としての義務を生きるキリスト 者の自覚

30. しかしながら、私たちオプス・ デイが、現世の社会、経済あるいは 社会事業、政治活動などの関心事と 全く無縁であるという事実は、現世 の社会を動かす精神(あるいはその 欠如)に対して、関心がないという 意味ではありません。私たちは、 人々が市民としての義務を明確に自 覚し、それを人として、またキリス ト者として正しく果たすことに関心 があります。

子どもたちがキリスト教要理を学ぶ際、これらの義務についても問答形式で触れるべきだと、私は度々言ってきました。それは、幼年時代から、これらの事柄は神の掟であることを知性に刻みつけ、長じて大人になった時に、それを果たす責任を感じようになるためです。

31. 時々、主が神のものと皇帝のものを区別されたことでについての誤解があります。キリストは、教会と国家という二つの法的な権威の領域を区別し、そのことにより、皇帝独

裁と「聖職者主義」という有害な影響に対する予防を図りました。 雪祭職に対する深い真実の愛える。 である健全な「反聖職者主義」を教えて の高貴な使命が、このを教しい事柄と混ざりのことすのは残念なことである。 すの品位を落とすのは残念なことでする。 できる統治とその構造について の正当な自治を定めました。

しかし、キリストが定められた区別は、宗教を神殿(香部屋)に押しることを神殿(ありません。となりません。となりないない。というないないない。といれないがあるとがないない。といるでは、ないませんがあるといるでは、でいるでは、でいると体がらです。他人は社会の一員だからです。

キリストのメッセージは個人的な信心の実践という狭い領域だけでないる、人間の生活全体を初めから終行しまで、大変による信仰の否定です。信仰はもいるの世の自治は相対的なであると、そしてこの世のすべといること、そのであるということが会事柄の救いであるということが分子には付きないであるということが会ます。世俗主義はその信仰を否するのです。

を聖化しながら、職業を通した使徒 職活動を個人的に、市民として、行 うために教理を与えるということで す。

繰り返し言ってきたことですが、オ プス・デイは、通常、外的には活動 しません。あたかも存在していな かのようです。各国の法律を尊重 し、その範囲内で働くのはメンバー たちです。オプス・デイの活動は、 主に、そのメンバーに、霊的・教 さい・使徒職的な深い形成を与えるこ とです。

オプス・デイの活動は広大なカテケージス、広大な霊的指導のようなものです。たくさんの人の良心を見い、刺激し、刺激し、刺激し、動かし、刺激がブルとします。それによう、キリスト信者といり、責任あるカトリック市民の諸義を果たすようにするのです。

スーパーヌメラリの形成

33. スーパーヌメラリである私の子 たちよ、オプス・デイがあなたがた に与える形成は柔軟性のあるもので す。手になじむ手袋のように、あな たがたの個人的・社会的状況に適合 します。あなたがたは霊的指導にお いて話すにあたり、仕事や家庭、社 会的義務の具体的状況をはっきり示 さなければなりません。私たちの精 神と修徳の手段は一つしかありませ んが、それらを硬直化させずに各々 の状況に合わせて実現させることが でき、また実現させなればならない からです。

出遭う困難(それらは度々想像上のものです)を前にして、あなたがたの精神の自由と平和が決して乱れないよう、ディレクターに誠実に話してください。必ず解決策があります。私たちが受ける霊的形成は、複雑さや小心、内的な萎縮とは正反対

のものであることを考慮してください。オプス・デイの精神は、心を自由にし、生活を単純にし、ねじれや複雑化を避けるようにしてくれます。自分を忘れて、寛大に他者のことを考えるようにしてくれます。

スーパーヌメラリは、形成を受ける ため、例外的にヌメラリたちが要がたちが要がにヌメーに行く必要して行く必要があるを 生活す。それは、主があなやであるであるであるであるであるであるでであるでででででである。また、「クリーでである。また、「の使達さのではありません。共同のはません。共同ではありません。共同ではありません。共同ではありません。共同ではありません。共同ではありません。共同ではあらいるからです。

34. オプス・デイは、霊的・修徳的 形成と共に堅固な教理的形成を与え ます。これは、オプス・デイにおけ

る神の子たちの「共通分母」(家庭 的雰囲気)を、十全にするために欠 かせないものです。あなたがたが、 多くの人の知性に光を与え、ときに 四方八方から来る攻撃から教会を守 るためには、根本的なテーマについ ての基礎的な知識・理解を持ってい る必要があります。教義的・倫理的 真理、キリスト信者の家庭と教育に 求められている事柄、仕事・休息・ 私有財産の権利、結社や表現の自由 などについての明確な知識・理解を 持っている必要があります。このよ うにして、veritas liberabit vos「真 理はあなたたちを自由にする┃ гб87 と いう言葉の真理を、喜びを持って実 感することができるでしょう。真理 はあなたがたに喜びと平和、実りを もたらす力を与えてくれるからで す。

年の研修会(それは、初期の熱意を 保ち、宗教的教養を高め、使徒職に 備えて自分を鍛えるための助けとな ります)、サークル、講演会、専門 的コースなどにおいて継続的な形で 豊富に教理を学び、同時に、キリ問 と教的な観点から、現代社会のられて知識を得ます。これられる について知識を得ます。これらす。 になをあなたがたは読書で補います。 があることでしょう。それに登録 はで活用し、メンバーでない人 も登録するよう努めます。

あなたがたに与えられた教理を、自 分のものにするよう熱心に励み、滞 らないようにしてください。受けた 形成を他者に伝える必要性と喜ばし い義務感を感じてください。それが 他者の心においても、正しい意向に 満ちた、良い行いとして実るよう に。

今述べた理由で、スーパーヌメラリの世話をするセンター委員会は、その仕事に献身する必要があります。 というのも、誰一人として彼らが (誰一人として私の子が)、孤独を 感じるようなことが決してあっては ならないからです。休暇の時期や孤 立状態を余儀なくされた時、どのよ うに彼らに形成を提供するか、注意 を払って事前に考えておかなければ なりません。

兄弟の統治や指導の仕事を託されている私の子たちは、往々にして、個人的な仕事の輝きを放棄する必要する必要する。際れた切石のように、たちの重要な仕事の基礎固めをするは、大きである。この統治や形成の活動と同の使徒職に全面的に、献身している他の兄弟たちの活動と同じように、常にプロフェッショナルなように、常にプロフェッショナルなけません。

旅人よ、己が道を歩め

35. オプス・デイがメンバーに形成を与えるのは、各メンバーが社会において、職業の実践において、個人

の自由をもって、キリスト者らしく 行動するためです。オプス・デイの ディレクターたちは、この世の事柄 に関して、特定の意見を押し付ける ことは決してしません。繰り返しま す。あなたがた一人ひとりが、しっ かりと形成された良心に従って、全 く自由に行動します。

内戦が終わったばかりの1939年、バ レンシアの近くで黙想会の指導をし ました。場所は、戦時中共産党の兵 舎として使われていた、大学の私立 学生寮でした。ある廊下で、反体制 派の人が書いた「旅人よ、己(お の)が道を歩め」という張り紙を見 つけました。皆はそれを取り払いた かったのですが、私は止め、彼らに 言いました。「そのままにしておき なさい。敵からの助言เธาだ。気に 入った」。その時から特に、何度も この言葉を説教のテーマとして活用 しました。自由に、各自が、自分の 道を歩め。キリストの教えが制限を

示していない事柄について、唯一の 基準をすべての人に強制すること は、不条理で不当なことです。

現世的なすべての事柄において、全 く自由です。世界の物事を秩序づけ るために、キリスト教的な唯一の形 式などないからです。社会的・科学 的・経済的・政治的問題の解決策は たくさんあります。そして、それら は自然法と福音の教えを含む最小限 の原理原則を尊重する限り、すて キリスト教的な解決策なのです。

私の子たちよ、現世的な事柄において自由、そして教会においてもんにおいるの(皆さんにむりの、私です。私は根っからの健全な)反ってあると同じ精神を持て、私と同じ精神を持て、私です。でするというでは、一つながいのようでは、あまが行われます。人のはながループに閉じ込め、信徒の

良心の自由を脅かします(信徒は自身の霊的な指導や形成を探すにあたり、自身が望み、自身が最も適切であると判断したものを求めるべきです)。そして彼らは、すでに神と教会の掟は十分あるのに、否定的で不必要な掟を増やし、その掟を科せられた人に心理的負荷を加えます。

自由

36. 私の子たちよ、自由です。世俗の事柄に関して、オプス・デイからの指示を決して期待してはなりません。オプス・デイが霊的な子たちに与えている自由を脅かそうとする人は、私の精神を持っていない人で、それは、オプス・デイにおける神の子したなります。

現世的諸問題に対して敏感であるべきなのは皆さんです。あなたがたは、受けた形成によって、自由に、諸問題を敏感に意識できる人にな

り、その結果、正しい基準で正しい 方向に導くべく、人間の諸問題や不 確かな社会状況に対して、自発的に 反応します。他の市民と共に、歩む 道に現れる現世的な問題に対して、 良心に従って、勇気をもって人間 的・キリスト教的な解決策を探すと いうリスクを取るのは皆さんの役割 です。

オプス・デイがあなたがたに、すで に出来上がった解決策を与えること を期待しても無駄です。かつてその ようなことはなかったし、これから も決してそのようなことは起こりま せん。私たちの本質に反することだ からです。オプス・デイは「家父長 主義 | ではありません。この言葉の 意味は曖昧ですが、ここでは否定的 な意味でこの言葉を使っています。 皆さんのディレクターたちは、あな たがたが持っている反応力と率先力 を信頼しています。彼らがあなたが たの手をとって導くことはありませ ん。ところで、霊的な領域においては、彼らはあなたがたに対して父親・母親としての心を持ち、良い意味での「家父長主義的」な心を持っています。

それゆえ、オプス・デイで享受して いる自由ゆえに、私たちが、社会の 中において、いわゆる圧力団体を形 成することはあり得ません。ディレ クターたちが、現世の問題について 具体的な基準を示すようなことがあ れば、別の考えを持っているオプ ス・デイの他のメンバーたちが、反 発することは至極当然なことです。 その時は、悲しいことですが、私は きっぱりと従うことを拒否する人た ちを、祝福し、称賛しなければなら ないことでしょう。このような場合 には、早急に地域委員会のディレク ター、あるいはパドレに知らせるべ きです。また私は、聖なる憤りを もって、ありもしない権限を振りか ざそうとするディレクターたちを咎 めなければならないでしょう。また 私の子の誰かが(自らの自由を口実 に)現世の事柄や自由に意見できる 事柄に関して、個人的な基準を押し 付けて、兄弟たちの正当な自由を制 限するようなことがあれば、それは 強い叱責に値します。

この明白なことを見ないように努 め、なにか隠し事をしているのだと 言い、ありもしない秘密を捏造する 人は、おそらく、ex abundantia cordis「心にあふれていることか ら そのようにするのでしょう。彼 らはそのように行動しているからで す。隠し事はこれまで存在したこと がありませんし、今後も必要となる ことは決してありません。彼らは決 して、私たちのように、顔をあげ他 の人の目を明るい光で見ることがで きないでしょう。各自が個人的な惨 めさを持っていたとしても、私たち には隠すものがないからです。その

惨めさとは各自が内的生活において 戦います。

37. ある人たちは、ここ31年の間、 私たちの活動を嫉妬心のうちに見て いました。別の人たちは、余り好意 的に見ませんでした。それは教会に 対して、そしてすべての人々の善の ために献身している人たちに対し て、好意を持っていないからです。 それに、幸いにも少数でしたが、聖 職者主義によって、私の子たちの什 事が、本質的に世俗的なものである ことを理解できない人もいました。 また、主に仕える人たちには、主な る神が恩恵(固有の恩恵)を与えて くださることを知らなかったり、そ れを思い出すことを望まない人もい ました。彼らは、オプス・デイの使 徒職の熱意と広がりと効果を説明す るために、全く偽りの人間的な理由 を捏造しました。しかし私たちの目 的は超自然的なもので、用いる手段 もまた全く霊的で超自然的なもの、

つまり祈りと犠牲そして聖化され聖 化する仕事です。

他者の個人的な自由を尊重し理解することができない人がいます。彼一は、オプス・デイのメンバーはつの全く霊的な共通目的を持って致しての自的においてのみの問題においること、世俗の問題な市であることを理解できないようであることを理解できないます。

リーメーソンと言わないまでも)王 党派または共和派のレッテルを貼ろ うとしました。

38. 私の子たちよ、あなたがたの使徒職的活動は、教会としての任務ではありません[ro]。あなたがたの中の誰かがキリスト信者の会

(associations of the faithful) の一員であっても、それ自体として不都合はありませんが、それは普通ではありません。オプス・デイは、あなたがたが特有の使徒職(神が私たちにお望みの使徒職)をするように形成を与えますが、その使徒職は宗教団体的な色合いを持つものではないからです[71]。

私たちは、慎み深く、団体としての 謙遜を生きています。なぜなら成功 や勝利を誇示することなく、静かに 働くので(しかし重ねて言います が、謎めいたことや秘密っぽさなし にです。それは神に仕えるために不 必要です)他のカトリック信者から 注目されることはなく(なぜならあ なたがたはカトリック信者の中の一 人だからです)、良い種を蒔いたか らといって拍手を受けることもあり ません。

しかし、特に農村部など、信者の団 体(confraternities)や小教区の使 徒職的団体に参加しないことが悪い 印象を与える可能性のある地域にお いては、そのような団体に参加する ことができます。その際、それらを 活気づけ盛り上げるよう努めます が、通常は役職に就くことはありま せん。ですから、キリスト信者の会 を、残念ながら、独占的な野心を 持って指導する人々は、自らの排他 的独裁が奪い取られることを恐れる 必要はありません。彼らの活動は彼 らのものであり、私たちは、彼らと 異なる、私たちの固有の方法で行動 すべきだからです。

しかし、あなたがたはキリスト信者 である以上、状況や「より高い使徒 職の効果」が別の行動を促さない限 り、社会が神に捧げる義務のある公 の礼拝から遠ざからないでくださ い。私はそのような礼拝が、共同体 や家族、神の民の参加なしで催され ているのを眺めて、苦しい思いをし た事が何度もありました。私は、あ なたがたが忠実であるならば、その 公の礼拝が本物になること、大げさ で極端なものにならずに、質素で格 調のあるものになることを確信して います。

市民としての権利と義務を遂行する ことにおける使徒職

39. 私の子たちよ、あなたがたに繰り返したいと思います。あなたがたが実現する特有の使徒職は、福音と使徒的教えに即した、市民としての国への全面的で誠実な忠実さをもって行われます[72]。その際、法に忠実

に従い、市民としてすべての義務を 守り、義務の遂行から逃れません。 また、共同体の善の中で、すべての 権利を軽率に放棄することなく行使 します。

この市民権の行使に関する聖パウロ の生きた模範が、使徒言行録にあり ます。全くの誠実さの表れである、 臆病な人には傲慢とも思えるような 堅固さで、使徒は必要な時に自らが ローマ市民であることを明らかに し、その権利を主張し、無為に謙遜 を装うことなく、ローマ市民として 扱うよう要求します。「ローマ帝国 の市民権を持つわたしたちを、裁判 にもかけずに公衆の面前で鞭打って から投獄したのに、今ひそかに釈放 しようとするのか。いや、それはい けない、高官たちが自分でここへ来 て、わたしたちを連れ出すべきだし

このような毅然とした態度でフィリ ピの看守に話しました。そして、エ ルサレムで鞭打たれる寸前にパウロ が護民官と交わした会話は、人とし ての気品に満ちた素晴らしいもので す。「パウロを鞭で打つため、その 両手を広げて縛ると、パウロは側に 立っていた百人隊長に言った。 『ローマ帝国の市民権を持つ者を、 裁判にかけずに鞭で打ってもよいの ですか』。これを聞いた百人隊長 は、千人隊長のところへ行って報告 した。『どうなさいますか。あの男 はローマ帝国の市民です』。千人隊 長はパウロのところへ来て言った。 『あなたはローマ帝国の市民なの か。わたしに言いなさい』。と言う とパウロは『そうです』と言った。 千人隊長が『わたしは多額の金を出 してこの市民権を得たのだ』と言う とパウロは『わたしは生まれながら のローマ帝国の市民です』と言っ

たし「74」。私の子たちよ、コメントす

る必要はないでしょう。手本にしな さい。

40. 折にふれて強調しましたが、私的な領域への国家の介入という嘆かわしい現実が進行しています。これは市民を隷属状態に陥れ、彼らの正当な自由を奪います。国家は冷たく思いやりのないものですから、全体主義は最も厳しい封建主義よりいっそう悪いものに成り変わります。

他の諸々の理由はさておき、このようなことが起こるのは、大方、の消極性によるもの、かれらの対することに対することに対することです。このなり行動の欠に由来するもので、カトリは、ことの中にも見られます。彼あることに、気づかないのです。

41. 娘たち、息子たちよ、神が私た ちに委ねられた使命と全面的に世俗 的な性格を持つ私たちの召し出しゆ えに、人の世のどんな出来事やどん な任務にも無関心をかこつことはで きません。それゆえ、繰り返します が、生活における人との関わりから 生じる社会的な活動の中ににあなた がたが「いる」必要があります。ま たはそこで直接あるいは間接的に影 響力を持つことが必要です。あなた がたは、職業団体、保護者会、大家 族会、労働組合、新聞社、芸術・文 芸・スポーツの振興会などに活気を 与え、それらに命を吹き込むべきで す。

あなたがたの一人ひとりが自己の社会的立場に従って、そして個人的な状況に最も相応しいやり方で、これらの公共の活動に参加したらいいでしょう。もちろん、個人的に行動する場合においても、協力するに値すると考える市民のグループと共に行

動する場合においても、あなたがた は全く自由に行動します。

今、話している公的な生活への参加 とは、もちろん厳密な意味での政治 活動のことではありません。私の子 たちで、いわば「プロ」として政治 に携わっているのは、ごく僅かで す。私が話しているのは、市民とし ての義務を認識しているすべての 人々に当てはまる活動のことです。 あなたがたは、同胞の市民を駆り立 てるあらゆる高貴な動機と同じ動機 に動かされて、個人的な自由と責任 をもって、行動するよう急き立てら れていることを自覚しなければなり ません。それに加えてあなたがた は、特に、使徒職の熱意と、すべて の人間的活動に平和と理解をもたら す望みによって駆り立てられること しょう。

42. このように働き、同胞の市民と 一体となり、彼らを動かし、人々の 正当な望みを表していない物事が押し付けられることがないように世論を作り上げることによって、あなたがたは国内の法を、特に結婚・教育・公共の倫理・所有権に関するものなど国民の生活において鍵となる法を、キリスト教的な形に方向づけることができるでしょう。

家族の尊重が離婚に基づくような法が、キリスト教的な法と呼べるでしょうか。宗教の多様性を誇りにする社会が、一方で公教育で生徒の信仰に沿った宗教教育を受ける権利を認めないとはどんな理屈でしょうか。

私的所有権は(それは共通善によって制約を受けます)、自由を行使するための手段であり、人間の成長と家庭の発展のための土台の一つであることに気づきませんか。これらの権利が尊重されていない国は、カトリック的でも人間的でもない国で

す。あなたがたの前に広がる展望が 見えますか。あなたがたは、これら の点やその他の重要な点において しっかり戦わなければならないので す。

43. 協力者たちと共に積極的に働き なさい。恐れずに協力者を増やしな さい。数は多いほど良いのです。彼 らの世話をし、形成を与えなさい。 協力者たちが、いつもやるべきこと を持っているようにしましょう。ス ポーツのトレーニングのように、彼 らがいつも動いているようにしなさ い。絶えずあなたがたの友人の輪を ひろげ、種々のやり方で、彼らに教 理と活力が届くようにしなさい。こ うして、弱いように見えても効果的 な、神的なネットが張り巡らされる でしょう。この良い使徒職的精神の 熱意を保つなら、穏やかで力強い、 計り知れない善が、全人類にもたら されるでしょう。

協力者となっている修道会(特に観想修道会)も祈りと隠れた生活で乱たちを助けてくれます。彼らは世間の中で観想的に生きる私たちの中で観想しています。彼らは世代といるでは、で生きる観想者です。これは同りの大きないです。

私たちの間には、使徒職活動において力を合わせて気高い態度で働く、あるいは私たちが働けるように助ける、多くの友人や協力者がいます。そしていは主である神から離れています。あの聖ペトロの言葉を思想してください。Satagite ut, perbona opera, certam vestram vocationem et electionem faciatis 「(良い行いを通して)、召されていること、選ばれていることを確か

なものとするように、いっそう努め なさい」「です。私たちが兄弟のようの をしているこの友人たちが、そのな しているこの友人たちが、これ を続けるように励まの自 はな仕事を続けるように励まの自 はない。私たちが、いつも個人の忠実 を動けるなら、彼らの思 情で彼らを助けるならための思 がキリスト教徒になるための思 受けることを確信してください。

44. 私たちの使徒職の中核は、教理 を与える「761ことであることを忘れな いでください。と言うのも、何度も 話したように、無知は信仰の最大の 敵だからです。聖パウロがローマ人 にしたためています。「ところで、 信じたことのない方を、どうして呼 び求められよう。聞いたことのない 方を、どうして信じられよう。ま た、述べ伝える人がなければ、どう して聞くことができようしい。教育 活動は私たちの職業的活動の小さな 一部分ですが、あなたがたはこの宣 教の責任を感じるので、教職を(そ

れが私的であれ公的であれ、個人の ものであれ共同のものであれ、初等 教育から高等教育まで)重要視しま す。

同じ理由から、世論を造り上げるメディアとなる、新聞、ラジオやテレビ、映画などに命を吹き込むよう努めなさい。このような職場で働いている人は、(サークルとか講演とかによって)小さなグループの人たちだけに教理を与えるのではなく、主のように「戸外で」大衆に向かって教えを宣べ伝えているのです。

宗教上のひどい無知があります。多くは私たちキリスト教徒の責任です。私たちが、日毎に技術的に向上し大きな影響を与えている、教義をすべてのメディアを通して、教義を伝えないからです。そして、それらのメディアは多くの場合、神に反ルを翻す人たちによってコントロールされています。

間断なく真理を告げ知らせる

45. 私の子たちよ、世の中で最も悪 いことは、ひどいことをしている人 が、そのことに気づいていないこと です。私たちを信じなかったり、信 じたくなかったりする人がいるとし ても、真理を、opportune, importune「折が良くても悪くて も」「78」、休まず宣べ伝え続けなさ い。Quidquid recipitur ad modum recipientis recipitur (器の受けとめ 方によって受けられるものが決ま る) [79]。それゆえ、信じないので す。私たちは彼らにカナの婚礼のブ ドウ酒を与えることができるでしょ う。そのブドウ酒はイエスの最初の 奇跡の証しであり、公におけるイエ スの神性の初めての現れでした。そ のブドウ酒も、彼らの良心に注がれ ると酢に変わってしまうことでしょ う。しかし真理を述べつつ良いブド ウ酒を与え続けましょう。私たち一 人ひとりは、ipse Chrsitus(キリス

ト自身) なのですから、イエスのよ うに言えるようになるべきです。

「わたしは真理について証しをする ために生まれ、そのためにこの世に 来た | 1801。

私の子たちよ、「偽りを捨て、それ ぞれ隣人に対して真実を語りなさ い。わたしたちは、互いに体の一部 なのです」[81]。私たちにも経験があ ります。ここで「私たち」と言うの がぴったりです。悪口、嘘、誹謗中 傷。私たち自身の肉でその苦しみを 経験しました。ときにはそのような ものが、司祭も含めたカトリック信 者によって引き起こされ、大波のよ うに押し寄せてきました。Omnia in bonum! (オムニア・イン・ボヌム、 すべては善のために)。あふれたナ イル川が泥によって土地を肥沃にし たように、私の子たちよ、あのごみ の大波は私たちに多くの実りをもた らしたのです。

46. あなたがたの友だちや同僚たちと定期的に小さな団欒(特に興味々いるはメディアで働いている人もしているしたさい。団欒において、今でではないでの方ではないでのからはいてのからはいて、会話において、適宜人々との会話が生まれるようにしてください。

真理を伝え良い種を蒔くチャンスを 失わずに、その機会を増やすことで す。「時をよく用い、外部の人に対 して賢くふるまいなさい。いつも、 塩で味付けされた快い言葉で語りな さい。そうすれば、一人一人にどう 答えるべきかが分かるでしょう」

あの私の子たちのことを喜びのうち に考えます。すなわち、新聞や雑誌

[82]0

の売店で働いている子たち、新聞の 社説や記事を執筆している子たち、 グラフィックデザインの会社に務め る子たち、そして他に、外見上慎ま しくても、自己の仕事によって、 日々、多くの人と出会うチャンスの ある私の子たちのことです。

47. 父母の皆さん、健全で楽しい娯楽を奨励してください。それがあうていまらないものにならないを知识にならないまた、実理気がは遠くでいまた、のまたがは遠くであるようにあるようにあるとであるようにあるとでは初いで結ばれることであるとではあなた。ではあるとでしょう。といるといるというではあるとでしょう。

この娯楽の使徒職の分野において、 あなたがたが市民としての行動に よって守らなければならない大事な ポイントは、公共の興行物の倫理性 であることを忘れないでください。 放縦な集団的雰囲気の中で過ごす若 者が、キリスト教的な家庭を築くこ とは容易ではありません。

あらゆる誠実な仕事は、キリスト教 精神と使徒職によって方向づけるこ とができる

48. 経済・金融界は使徒職活動の対 象にはならないと考えるのは間違い です。この考えは、聖職者主義的な 雰囲気から来た人々の間で広く行き 渡っています。彼らの中には矛盾を 抱えている人も少なからずいます。 つまり、この同じ人々が、教会の庇 護のもとで、彼らが「カトリック信 者である」という理由で信頼され、 商売や企業において他人の多額の資 金を取り扱っているのです。このよ うな人々について、ある人は悪意か らではないにしても、「彼らは天に 目を向けながら、手はどこへでも伸 ばす」と言いました。経済活動に対する遠慮と用心は、キリスト教的ではありません。なぜなら、それは聖化されるべきもう一つの仕事だからです。

この考え方がどれほど浸透していたかは、教会に伝わる面白い敬虔な考察を読めばわかります。もちろん、当時の考え方や環境を考慮に入れれば、そのように書かれたことも理解できますが、いずれにせよ、そこに

は次のように書いてあります。ペトロは主の復活の後、漁師の仕事に戻ることができた。それは漁が誠実な仕事だったから。しかし、マタイは以前の職業に戻ることがゆるされなかった。それは、大罪を犯す危険によるいは単に罪を犯さずによるいは単に罪を犯さずとにきない仕事があり、マタイの仕事は、まさにそういうものだったからだと[83]。

Contemptus saeculi(世俗蔑視)を表明する人々から生まれたこの誤れたさりません。信徒としての精神(lay mentality)を生きるあなたがたにもって、商売や金融が悪いこながたとできるなどとは、です。を大がたはこれらの仕事然です。あんたちと同様に、そしまなたがたちとができ、それらをキリスト教的精神と使まれることができまれるです。

49. このようなテーマについて話しているので付け加えますが、残念ながら、経済の領域における私たちの活動について人々が言っていることは真実ではなく、実のところ、そのような活動はぼ皆無です。私たちの活動は貧しい大家族の生活と発展のための普通のものです。その活動が1000倍あったらどんなに良いことでしょう。

 なければならず、それには資金が必要だからです。また、病気や高齢のメンバーの面倒も見なければなりません。そして、日毎に多くなる、生活維持のため経済的助けが必要な、高齢または病気のメンバーの親を援助するという幸いなる重荷もあります。

いずれにせよ、そのような経済的な活動があるならば(ないならできるだけ早く始めるべきです)、それは常にそれぞれの国の法律を尊重して行われ、善き市民として分担金や税金を払います。特別扱いを受けることを私たちは望みませんし、またして私たちのやり方」でもありません。

50. ときに、このような中傷を行う 人々は公的なグループに属してお り、国民の意志に反して、集めた税 金を分配しています。それと同時 に、彼らは私たちが息をすることが できないようにしようとしています。福祉事業、教育事業、文化事業を維持しています。本期のであるため、登録を発展させるため、仕事を対しるを対したがある権利も与えられないは自ののであります。としています。

例えば宗教、芸術、スポーツ、文化 など、どのような種類の団体であれ、目的遂行のための手段を支える ために資金を持ち、それを動かす必 要があります。この点で躓く人がい るならば、その人は非常識であると 言わざるを得ません。

宗教的な団体について話す時、 英国 外国聖書協会(The British and Foreign Bible Society)あるいは銀 行や保険会社などを有する救世軍 (Salvation Army) の例がすぐに思 い浮かびます[84]。このことで躓く人は誰一人いません。宣教や慈善活動のためにそれらの手段が必要なのです。多くの国で、これらの宗教的な団体の経済的な活動は批判されないだけでなく、その社会的な仕事ゆえ税も免除されています。

公的機関が私たちに融資をしたり、 さらには補助金や助成金を与えるよとは正義に叶っています。そのを果っているの義務のの表がいるにすぎません。と事にして、私たちは、社会的な仕事ししがるの方に、当局の主のです。同じように、当局があるがあるです。ですません。

奉仕の精神

51. 「神の仕事」を意味するオプス・デイ (Opus Dei、operatio Dei) は、すべてのメンバーに働く

ことを要求します。なぜなら、仕事は聖化と使徒職の手段だからです。 そのため、全世界で無数の人々が、 カトリックであってもなくても、私た リスト者であってもなくても、私た ちのオプス・デイに感心し、オプ ス・デイを愛し、愛情を持って私たち ています。ことについて私たち は主に感謝します。

あなたがたの中には、完全な自由と 個人的な責任を持って、政治活動を 職業とする人もいます。その人は、 祖国の政治に携わるのに十分な知識 や才能があると自覚し、政治に携わ ろうと決めました。市民社会の中で 政治に携わる人が少数であるのと同 様に、そういうメンバーは決して多 くありません。また、この世俗社会 で働くオプス・デイの他のすべての メンバーと同様に、政治家として働 く時、カトリック信者やオプス・デ イのメンバーという身分を振りかざ すことも、また教会を利用すること

も、オプス・デイを利用することも ありません。なぜなら、移り変わる この世の問題に、神の教会もオプ ス・デイも巻き込むことはできない と、よく知っているからです。政治 の世界で働く際、カトリック信者で ある私たちが望む社会は、市民の自 由を認める(誰もが国家の前に同じ 義務と同じ権利を持つ)けれど、社 会の共通善を獲得するために、皆が 心を一つにして働く社会であること を、忘れてはなりません。その共通 善獲得のために、教会の教えの不変 の源泉である、福音書の諸原則を適 応するのです。

あなたがたは、政治家として働く権利を完全に持っています。もし、ある国家が、オプス・デイのメンバーが政治家になることに邪魔だてするなら、他のキリスト信者の会のメンバーに対しても、同じようにして、同じならないでしょう。そして、同じ理由(カトリック信徒が教会当局

に払うべき従順)から、当然すべて の信者に同じ邪魔だてをするでしょ う。そのような行為は、信仰を実 している信者が、世俗社会の中で 持っている権利と責任を否定するこ とになります。信仰を生きる信者 を、下等の市民として扱うのは不正 ですが、現代社会ではこの種の差別 の例に欠けることはありません。

政治が自分の天職と考える人たちは、堂々とその道を進みなさい。犯していると考えない。政治をになると考えない。政治をしていると考えない。政治をもっての国のすることを表れての国がであるとを表れての国がであるようなは、有能な政治家になるようない。

聖人となった統治者を記念するミサ の典礼文(この世から離れた人々に よって作られた)の中で、聖人が、 pietate magis quam imperio、王としての権威よりも信心深さをもって、正しい命令よりも愛情によって国を統治したと称賛されていますが、それは聖職者主義的な考え方の現れです。

あなたがたは、自分の使命を正しい 意向をもって、超自然の見方を失う ことなく、遂行しなさい。しかし、 神のことと人間のことを混同しては なりません。人間として果たさなけ ればならないことを果たしなさい。 神によって創造された世界には、独 自の原理と法があり、それを〈天使 的〉な態度によって踏みにじっては いけないことを忘れないでくださ い。私の子どもに対する最悪の称賛 は「彼は天使のようだ」というもの です。私たちは人間であって天使で はありません。

52. 政治の世界で働いていた者は、 どんな体制の下でも働き続ける必要

どんな体制においても、この〈畑〉 を放棄しないことが重要で「圏町。た だし、それによって不当に「体制の でででででででででででいる」といるうにしたかりではないのでは、 の子たちよ、多数を実践するしたがでいるが、 におカトリスト信者の会でではあるなないでもいるは、 様、政府にいるしそうでないない。 もしそうでないない。 そのカトリック信者たちは、信仰を 実践しておらず、責任感も持ってお らず、カトリックとも呼べないと言 えるでしょう。または教会が迫害さ れているのかのどちらかです。

政府の仕事に参加する時は、市民が 果たすことのできる正義にかなった 法を作ることに全力を傾けてください。不正な法を公布することは、権力の乱用であり、国民の自由の侵害 です。それだけでなく、そのようなの良心を混乱させます。そのよいと 場合、国民は不正な法を守らないという権利を持っています。

共通善には共同体の全成員が参与すべきであることを忘れず、全市民の自由を尊重しなさい。すべての人に生活水準を高める可能性を与え、一部の人を高めるために他の人が卑しめられることがないようにしなさい。最も恵まれていない人々が、自分たちの未来に明るい展望を持てる

結婚は地上における神への道

53. スーパーヌメラリである私の子たちよ、今、結婚という「偉大な秘跡(sacramentum magnum)」 から生まれたあなたがたの家族・家庭について考えています。前世紀に行われた、家族を破壊する運動がいまだに続いている現今、私たちオプス・デイは、社会のキリスト教的細 胞(家族)に聖性への熱意を与える ために来たのです。

あなたがたの第一の使徒職は家庭に あります。オプス・デイが与える形 成によって、あなたがたは家族の素 晴らしさ・美しさを認識し、家庭を 築くことが超自然的な仕事であるこ と、夫婦の義務が聖性の源泉である ことを見出します。結婚の召し出し (そう、これは召し出しです)の偉 大さを自覚しながらも、使徒的独身 の召し出しに対して特別の尊敬の念 と深い愛情を感じるでしょう。あな たがたは使徒的独身の召し出しが、 結婚のそれより優れていることを 知っていますほび。それゆえに、あな たがたの子どもの誰かが、神の恩恵 に助けられて別の道を選んだなら、 心の底から喜ぶでしょう。それはあ なたがたにとって「犠牲」ではな く、善き神がなさった選び、聖なる 誇りの理由、イエス・キリストへの

愛によって喜んですべての人に仕えることです。

普通、学校において、たとえそれが 修道会が経営するものであっても、 若者たちが結婚の尊厳と清さを理解 するように教えられることはありま せん。あなたがたも知っているで しょうが、高校の最終学年の生徒た ちに行われる黙想会では、結婚より も修道士・修道女への召し出しの可 能性について考えることに重点が置 かれことがよくあります。また結婚 生活を軽視する人もいます。その結 果、若者たちが結婚を、教会が単に 許容しているだけのものと、誤解す る危険もあります。

オプス・デイでは、いつもこれとは 異なる教え方をしてきました。神の 国のための独身が、結婚よりも優れ ていることをはっきり示した上で、 結婚もこの地上での聖なる道である と教えてきました。この方針をとる ことは、悪い結果を生み出しません でした。なぜなら、真理は人を自由 にするからです。若者は非常に寛大 な心をもっており、自由に神への愛 を選ぶにあたり、肉を超えて高く飛 ぶことができるからです。

54. 神から家庭を築くように呼ばれた私の子たちに言います。互いに愛し合い、恋人だった時持っていたワ

クワクするような愛をいつまでも持ち続けるように。人生につきものの困難や逆境が始まれば喜びは終わると考える人は、理想であり召し出しである結婚について、惨めな概念しか持っていません。

実はその時こそ、愛は強まり、死よ りも強くなるのです。 Fortis est ut mors dilectio「愛は死のように強 (い) | 1891。悲しみや困難がどっと 押し寄せても、それらは真の愛を消 し去ることはできません。夫婦が一 緒になって寛大に犠牲を分かつ時、 二人は一層強く結ばれます。 Aquae multae non potuerunt extinguere caritatem「大水も愛を消すことはで きない | 1901。無数の困難は、それが 物理的であろうが、精神的であろう が、愛を消し去ることはできませ ん。

あなたがたの結婚は、通常、子ども に恵まれることでしょう。もし神が

55. 子どもを生む能力は、神の創造の業に参加するようなものです。ちょうど人間の知性が神の知性の閃光のようなものであるように。命の泉を枯らさないでください。恐れ合いでください。偽の経済的、社会産りない。または科学的な理由で、出産利限の必要性を正当化しようと問いても、シスト教的でも人間の理論なく、犯罪的です。それらの理論

は、真面目に分析すれば、すぐに崩壊します。それらは臆病のなせるわざです、私の子たちよ。それらは、 臆病と、正当化できないものを正当 化しようとする試みです。

これらのアイデアが、しばしば、司 祭や修道者から来ることは残念ないです。彼らは、呼ばれているのに無分別に問題に首を突っ込んが会のは、をきに病的な好知は、ます。それは、ときに病的変が欠如は、をの表れであり、教会への愛が欠如は、なることの証です。というの神秘体の成長と拡大のための手段として、定められたからです。

信者の家庭の子どもの数が減ると、司祭や、イエス・キリストへの奉仕のために人生を捧げようとする人の数も、減ることになると確信してください。私は、神から一人の子どもしか授からなかったにもかかわらず、その一人の子どもを寛大に神に

捧げた夫婦を少なからず知っています。しかし、そのようにする人は多くはありません。子沢山の家族の場合、神の召し出しの偉大さを理解するのはより易しく、その子どもたちの中から、あらゆる身分と道を選ぶ者が出てきます。

56. 寛大になり、子沢山の家庭の喜びと堅固さを感じてください。子供を望まない夫婦を、私は恥ずかしく思います。子供を望まないなら、禁欲しなさい。夫婦に対し、妊娠の可能性がある時期における夫婦行為を控えるよう勧めるのは、キリスト教的ではないと思いますし、正直にそう言います[91]。

確かにある具体的な事例において、 常に医者と司祭と相談の上、そうす ることはできますし、そうしないと いけないこともあるでしょう。しか し、このやり方を、一般的な規則と して勧めることはできません。非常 にきつい言葉になりますが、もしらかが、両親の清い愛の実りではきれて人と、親の意志に反しなくないに、少ないをないが、の墓にではをかけで、教をといる。神のおいばをかけで、もないでは、一般的に、まずの中に生まれましました。私たりには、では、この家族に召し出しを負ってます。

民が成長するための手段であるという事実(深い神学的基盤のある事 実)について深く考えないからで す。

それに反して(もっと賢い)キリストの敵たちは、もっと常識的です。 共産主義国家では、生命の法則と人間の生む力の重要性を日に日に理解するようになっています。そして、それらを決定的な要素としてイデオロギーと政治の計画の中に組み込んでいます。

明るく喜びに満ちた家庭

57. 私がいつも「明るく喜びに満ちた」という形容詞をつけるあなたがたの家庭では、子どもたちの超自然的徳と人間徳が、自由と喜びと犠牲の雰囲気の中で、育てられることでしょう。このような家庭を、私はでプス・ディの使徒職的学校と呼のオしたが、そこからどれほど多くのオプス・ディへの召し出しが生まれる

ことでしょう!私の大きな喜びの一つは、はるか昔に見たある若者の顔に似た顔を見ることです。その子にこう質問します。「君の名前は?君は某君の子供ではないかね」と。そして「はい」という答が返ってくる時、私は心を天にあげて喜び、神に感謝します。

結婚生活の幸福の秘訣は、日常的な ことにあります。そこに隠れている 喜びを見つけることです。例えば、 帰宅すること、子供の教育、家族全 員が協力してする仕事。また家庭を より快適なものにし、教育をより効 果的にし、家庭生活をより簡単にす る、現代文明が提供するあらゆる進 歩を活用すること(あなたがたの家 は決して修道院のような佇まいでな いように。もしそうならそれは普通 ではありません)。このようなこと に隠れている喜びを見つけることで す。

58. またあなたがたは、オプス・デ イのメンバーの家族で、神への奉仕 に身を捧げるという道を理解できな い人々を助けます(そのような人は 少数です)。彼らはオプス・デイに おける神の子の父親・母親になるよ う呼ばれるという計り知れない神の 好意を受けました。あなたがたは、 彼らがこのことについて神に感謝す るようになるように助けます。彼ら は、まさか自分の子どもが神に身を 捧げるとは夢にも思ったことがな く、それどころか、それとはかなり 異なった人生計画を子どものために 作っていました。そして、多くの場 合高貴だが地上的な彼らの計画が潰 されるとは思っていなかったので す。いずれにしても、私の長年の経 験によると、最初は子どもの召し出 しを喜んで受け入れなかった親も、 最後には降参し、祈りの生活を始 め、教会に近づき、ついにはオプ ス・デイを愛するようになります。

神のおかげで、上述の考察にもかかわらず、自分たちの家族の一員の召し出しに対して、超自然的かつキリスト教的に反応し、援助を行い、スーパーヌメラリとなる、あるいは少なくとも熱心な協力者になる家族(親、兄弟、親族)の数は日に日に増えています。

私の子たちの母親・父親と話す時、 私はよくこう言います。「あなたが たの親としての使命は終わっていま せん。彼らが聖人になるように助け なければなりません。どのようにし てですか。それはあなたがたが聖人 になることによってです。彼らと私 が聖人になるのを助けることによっ て、あなたがたは親としての使命を 果たしているのです。あえて言わせ てください。オプス・デイの誇りと 冠は母親・父親のあなたがたです。 あなたがたは自分の心の一部を教会 への奉仕に捧げたのですからしと、

使命を果たすための大胆さ

59. 私の愛する子たちよ、これで終わります。あなたがたが、主の呼びかけに忠実でありたいと強く望んでいることを知っていますが、「もう一度思い起こさせようとして、所々かなり思いきって書きました」[94]。

自分を捧げ、自分の行為に責任を持 つことを恐れずに、大胆に使命を果 たしてください。人間というものに すぐに自由の行使を恐れます。何方 おいても、すでに決まったやり が、人間はしば(自由を放 すが、人間はしば(自由を求めます。 とを恐れな して)定まったやり方を求めます からです。

オプス・デイは、あなたがたが、各 自、自分の環境の中で、勇気をもっ て、積極的に、イニシアティブを 持って、周囲に影響を与え、最前線 で戦う男女になるように形成を与え ています。あなたがたは、この形成に対して、やる気と努力をもっての えねばなりません。あなたがたの決意がなければ、ふんだんな霊的手段 も何の役にも立たないでしょう。よく昔の短剣に刻まれていたあの言葉 を思い出してください。「もしおに勇気がないなら、私を信頼するな」。

毅然とした態度を取りなさい。 くら、はなせい。なぜというない。ながでありない。なができない。 は、たまないでするはでからでは、 は、からないないでは、 は、からないでは、 は、ないいは、 は、ないいは、 は、ないいは、 は、ないには、 は、ないにはないは、 は、はないは、 ればなりません。 60. すべての人に、あなたがたのキリスト教的な質素な生活と犠牲の模範を示しなさい。主は言われました。「わたしについて来たい者は、自分を捨て(なさい)」「呵」。主は、ぶどうのように桶の中で足で踏まれ、潰されることの豊かさを、私たちに教えてくださいました。それはキリストのぶどう酒になるためでした。

どんな時でも落ち着きを失わないない。決して暴力的や攻撃的に。決して暴力しないように、激高したの変をもうに、激高されて変をを表す。ない、激高されて変をしたの変をはない。というである。ないのでは、その変をはない。であるであるが、ないのでは、それがでは、といいまが、を前に、それができるが、ないまでは、それができるが、ないまでは、それができるが、ないまでは、それができるが、ないまでは、それができるが、ないまでは、それができるが、ないまでは、それができるが、ないまでもできるが、ないまでもでもできるが、ないまでもできるが、ないないないない。

るという安心感がありました。主 が、なにか強制的な力をもって、私 の心と口に「Abba! Pater!(アッ バ!パーテル!おとうさん!) | と いう柔和な呼びかけが生じるよう働 かれていることを感じました。私は 街の中、市電に乗っていました。街 は、私たちの神との観想的対話を妨 げません。世間の喧騒は、私たちに とって祈りの場です。私はおそら く、声に出してあの祈りをしていま した。周りにいた人は、私を気が 狂った人だと思ったに違いありませ ん。「Abba! Pater!」。すべてをご 存じで、何でもおできになる御父の 子どもであると感じることは、なん という信頼、なんという安らぎ、な んという楽観をあなたがたに与えて くれることでしょう。

私の子たちよ、「なおいっそう励む ように勧めます。そして、わたした ちが命じておいたように、落ち着い た生活をし、自分の仕事に励み、自 分の手で働くように努めなさい。そうすれば、外部の人々に対して品位をもって歩み、だれにも迷惑をかけないで済むでしょう。キリストの平和があなたがたの心を支配するように」[98]。

あなたがたのパドレより心から祝福 を送ります。

ローマ、1959年1月9日

[1] この手紙の批判版は、Studia et Documenta 17 (2023), pp. 279-351 に掲載されている。

[2] ホセマリア・エスクリバー・デ・バラゲルより教皇ピウス十二世への手紙、1948年2月2日(Carta de Josemaría Escrivá de Balaguer al papa Pío XII, 2 de febrero de 1948, en AGP, serie L.1.1, 10-1-15, en el

n.° 342, 3 de los Addenda a las Constitutiones \langle en AGP, serie L.1.1, $10-1-17\rangle$ \rangle \circ

[3] ルカ12・49参照。

[4] コロサイ2・14参照。

<u>[5]</u> ーコリント6·20、一ペトロ1· 18-19参照。

 $[6] \square - \triangledown 8 \cdot 31 - 32 \cdot 38 - 39$

[7] ガラテヤ3·28、コロサイ3·11参 照。

[8] ルカ14・15-24参照。

[9] コロサイ1・24。

[10] 詩篇145(144)・21。

[11] ヨハネ18・6参照。

[12] マタイ13・24-30参照。

[13] 黙示録21·1-2参照。

- [14] 黙示録17・14。
- [15] ニテサロニケ2・3-4、黙示録13・ 1-7参照。
- [16] マルコ10・32。
- [17] ルカ12・50。
- [18] マルコ10・38。
- [19] マルコ10・39。
- [20] ユダ19。
- [21] ーコリント2・14。
- [22] 黙示録 21.6参照。
- [23] ヘブライ13·8。
- [24] イザヤ10・21-22。
- [25] イザヤ 24・13参照。
- [26] □ − マ11·5。

- [27] ルカ12・49、サムエル上3・8。
- [28] マルコ8・2。
- [29] ルカ4・40。
- [30] 創世記27·27参照。
- [31] トレント公会議(1563年11月 11日第24総会「婚姻の秘跡について の規定」10条)。(編者注)
- [32] 聖ホセマリアは、知識人たちの社会に及ぼす影響が大きいので、彼らの間にキリスト教的な影響を与えることをオプス・デイ特有の目的の一つに数えていたが(ホセ・ルイス・ゴンザレス・グジョン、ディーの歴史』〈José Luis González Gullón ― John F. Coverdale, Historia del Opus Dei, Madrid, Rialp, 2021, p. 56, nota〉参照)、創立当初から、「私たちは大勢の人のためであり、決して大衆に背を向けて生きること

はない| (ホセマリア・エスクリ バーからフランシスコ・モランへの 手紙〈Carta de Josemaría Escrivá a Francisco Morán, Burgos 4 de abril de 1938, en Camino, ed. críticohistórica, op. cit., p. 250〉)と強調 していた。保存されている最も古い 文書から、労働者、芸術家、看護士 等、あらゆる職業と社会的地位の人 に近づこうとする聖ホセマリアの熱 意が伝わってくる。エスクリバー神 父は、彼らの中からオプス・ディへ の所属を望む人が出て来ることを予 見していた。例えば、『内的考察』 373番(1931年11月3日)には、次 の言葉が記されている。「神の助け と聴罪司祭の承諾で、早い時期に選 り抜きの労働者の小さなグループが できるよう努めよう| (ルイス・カ ノ「初期のオプス・デイのスーパー ヌメラリ(1930-1950) | 〈Luis Cano, "Los primeros supernumerarios del Opus Dei (1930–1950)", en Santiago Martínez Sánchez e Fernando Crovetto (ed.), El Opus Dei. Metodología, mujeres y relatos, Thomsom Reuters Aranzadi, Pamplona, 2021, p. 379〉 より引用)。(編者注)

[34]「専門化あるいは特定化された 目的し:長年、世俗的な領域の使徒 職において、信徒を様々な小教区の 活動への協力へと導くカトリック・ アクションの伝統的な中央集権的モ デルに倣うことが良いのか、それと も社会問題のある領域にカトリック 活動家を組み入れる「専門化され た | モデルが良いのかが議論されて いた。創立者によると、オプス・デ イにとってすべての誠実な仕事や活 動が使徒職の道具である。それゆ え、オプス・デイには人間生活に固 有な「あらゆる『専門』がある」。 (編者注)

[35] 著者は、世界におけるオプス・ デイの信徒の使徒職は、彼らの「教 会における自らの使命」であり、そ れは「世俗的な職業における召し出 し」を通して体を成すことを指摘す る。即ち、それは世界において修道 者が献身的に推進している使徒職に 入り込むことでも、それらの使徒職 に対して優劣を問うものでもなく、 単に種類の異なる使徒職であるとい う指摘である。なぜならオプス・デ イの信徒の使徒職は奉献生活への召 し出しから生じるものではなく、神 がすべての人を盲教するキリストの 弟子に招く洗礼から生じるものだか らである。(編者注)

[36] 実際には、社会的・使徒職的観点から見ると、諸々の運動との相違は僅かである。聖ホセマリアがここで指摘する相違は、オプス・デイの司牧現象と交わり、そしてその内部の位階制が全世界的であるという点にある。しかしこの指摘は、世界に

おける聖性・福音宣教・教会への奉 仕・交わりと兄弟愛のおける絆とい う熱意を同じく共有する人々と距離 を取ることを意味するものではな い。(編者注)

- [37] エフェソ 5・8-9。
- [38] ヨハネ 11・39。
- <u>[39]</u> フィリピ 4·8。
- [40] コロサイ 3・17。
- [41] ガラテヤ5・24。
- [42] フィリピ3・18。
- [43] ヨハネ12・24参照。
- [44] フィリピ 3・19-21。
- [45] 詩編 20 (19)・8参照。
- [46] マタイ 24・28。
- [47] フィリィピ4・22。

- [48]フィレモン8-12、エフェソ6・ 5~、コロサイ3・22-25、一テモテ6・ 1-2、一ペトロ2・18~参照。
- [49] テルトゥリアヌス『護教論』 (Tertuliano, Apologeticum, 37,4 〈Fontes Christiani 62, ed. de Tobias Georges, Freiburg-Basel-Wien, Herder, 2015, p. 230〉)。
- [50] ローマ14・19。
- [51] □ − ▽ 12·17-18。
- [52] ルカ16・8。
- [53] 「敵からの助言」:スペインの俗諺で、敵に対しては賢慮深くあるようにという意味。特に敵が私たちの善を探しているかのように振る舞う時のことを指す。この場合、聖ホセマリアはマルクス主義に不信感を抱くよう私たちに勧める。興味深いことに、エスクリバー師はこの手紙の35番で再度この諺を使い、「とき

に敵の言葉は、有用な真理を教えて くれる」という別の意味を持たせて いる。(編者注)

[54] □ − マ 13·11。

[55] マタイ 10・34。

[56] ーペトロ3・15。

[57] ニコリント5・14。

[58] □-マ12·11。

[59] エフェソ5・15-16参照。

[60] ガラテヤ6・10。

[61] 詩篇2·8。

[62] ーテサロニケ5・14。

[63] ニテサロニケ3・11。

[64] ニテサロニケ3·12。

[65] ユディト8・9-13。

- [66] 使徒言行録5·12。
- [67] マタイ22・21参照。
- [68] ヨハネ8・32。
- [69] 「敵からの助言」:24番、脚注 参照。(編者注)

[71]「宗教団体的な色合いを持つも のではない」:世界におけるキリス トの弟子としての使命は、洗礼によってもたらされ、各人が繰り広げる人間関係の中で展開される。それゆえ、公にはカトリック的(宗教団体的)な色合いを持たないことが可能である。それは個人の信仰生活から生まれるもので、自らの職業や世俗的な活動において表されるものだからである。(編者注)

[72] マタイ22・15-22、マルコ12・ 13-17、ルカ20・20-26、ローマ13・1-7 参照。

[73] 使徒言行録16:37。

[74] 使徒言行録22·25-28。

[75] 二ペトロ1・10。聖ホセマリアが ここで引用しているブルガタ訳の箇 所は、ネオ・ブルガタ訳において 「per bona opera」の部分が省かれ ている。新共同訳では「召されてい ること、選ばれていることを確かな ものとするように、いっそう努めな さい」となっている。(編者注)

[76] 「教理を与える」:聖ホセマリアは度々この表現を「様々な状況において色々な形でキリスト教真理、信仰の遺産を伝える」という意味で用いた。言い換えるならば、それは「福音のメッセージを個人的活動そして職業的活動を通して伝え広める」という意味である。(編者注)

[77] $\Box - \neg 10.14$ °

[78] ニテモテ4・2。

[79] 「Quidquid recipitur ad modum recipients recipitur(器の受けとめ方によって受けられるものが決まる)」:スコラ学特有の哲学的格言。聖トマス・アクイナスもこの格言を用いている(『神学大全』

〈Summa Theologiae, I, q. 75, a. 5; Scriptum super Sententiis, lib. 4, d. 49, q. 2〉参照)。(編者注)

- [80] ヨハネ18・37。
- [81] エフェソ4・25。
- [82] コロサイ4・5-6。
- [83] 大聖グレゴリオ『福音に関する説教』(S. Gregorio Magno, Homiliae in Evangelia, XXIV, en Corpus Christianorum〈Series Latina〉CXLI, p. 197)参照。
- [84] 英国外国聖書協会は1804年に設立された。The Bible Societyとも呼ばれる。世界中に聖書を普及させることを目的とする聖書協会世界連盟(United Bible Societies)に加盟している。救世軍は1865年に設立されたプロテスタント運動、慈善団体。(編者注)
- [85] エスクリバー師は、教会当局が それを禁じる場合を除いて、各自が 自分の職業的召命を続けることを提 案する。オプス・デイに関して、フ

ランコ体制に協力したという批判が よく知られている。この批判は1957 年フランコの政府に二人のメンバー が入閣し、その後、他の数人が入閣 したことによる。しかしながら、ス ペインのカトリック教会当局は、信 者がフランコの政府に協力すること を禁じるどころか、むしろ励まして いた。なぜなら、この政府は、政治 的自由を認めなかったにしても、社 会的生活における福音の現存を保証 するように見えたからであった(ゴ ンザレス・グジョン、カバデル『オ プス・デイの歴史』〈González Gullón, Coverdale, Historia del Opus Dei, pp. 221-225〉参照)。 (編者注)

[86] エフェソ5・32参照。

[87] マタイ19・11~、1コリント7・25-40参照。10番第4段落脚注参照。 (編者注) [88] 「人間の愛を称え神への愛を表現する歌」:十字架の聖ヨハネ (1542~1591) の詩へのリファレンスを暗示している。この聖人が書いた不朽の詩のいくつかは、ルネサンス時代の著作家の男女愛の詩とよく似ているが、それは、神への愛を表現して、つまり霊的な意味合いを込めて書かれたものであった。(編者注)

[89] 雅歌8·6。

[90] 雅歌8:7。

[91] 「勧めるのはキリスト教的ではない」:聖ホセマリアは1960年代の西欧社会に広がっていた、生ぬるくなる一方の風潮の中で、結婚の召命についての非常に高い理想を提示している。人々が、定期的禁欲をしてりり」避妊方法であると理解し、その選択に伴う医学的・人間的・霊的影響を考慮に入れずに、手段として用いることをエスクリバー

師は望ましいと考えない。次の段落 で、具体的なケースでは「そうする ことはできますし、そうしないとい けないこともあるでしょう | と言っ ているが、医師と司祭に相談するよ う勧める。聖ホセマリアは、結婚を キリスト教的に聖なる形で生きたい と望むと同時に、妊娠に間をあける 必要性を持つ人を助けたいと望む。 一般的に言えば、師の言葉は、1959 年(手紙の日付)から1966年(手紙 を印刷した年)の間に有効であった カトリックの司牧方針と倫理実践に 沿っている。それは、聖ホセマリア の個人的図書室にあった、いくつか の当時の倫理神学の書物に見ること ができる。この教えは、後に聖パウ 口六世の回勅『フマーネ・ヴィテ』 (1968年)によって、より正確にさ れ、改善された。『フマーネ・ヴィ テ』はもし妊娠に間をあけることを 望み、そのためにこの手段を取る場 合に条件となる正当な理由について 触れる(16番参照)。それと同時

に、この手段は、「良心的産児」 (responsible parenthood) と貞潔 の徳と切り離すことはできないと説 明する。聖ホセマリアのこの手紙が 出た頃は、この問題についての神学 上の議論があり、教導職は、1965年 の第二バチカン公会議の『現代世界 憲章』(50-51番)ですでに示され た方向性に沿った教えを、正確に表 現しようと努めていたところであっ た。現行の『カトリック教会のカテ キズム』(2369~2370番)は、『フ マーネ・ヴィテ』の定式を取ってお り、それに聖ヨハネ・パウロ二世の 教えが加えられることにより、説明 がさらに豊かになっている。(編者 注)

[92] 「非常にきつい言葉」:聖ホセマリアはこの手紙を、自身の話し方、つまり率直でごまかしのない話し方を、知っている人たちに向けて書いていることを思い出さねばならない。それと同時に、師が説教や文

書において、ある教えを強調したい 時、誇張表現を使う事が稀でなかっ たことを思い起こす必要がある。例 えば、百人の公証人が同じことを 言ったとしても、自分の霊的な子ど もたちの言うことの方を信じると言 う時(『主との対話』〈En diálogo con el Señor, op. cit., p. 282) あるいは陰口を言うくらいなら、歯 で舌をかみ切って吐き出すと言う時 (『ロマーナ』〈 «Romana» 42 [2006], p. 84〉)、この他多くの例 を引くことができるが、どれも印象 に強く残る表現である。これらは拡 張表現で、言うまでもなく文字通り とるように意図したわけではない。 エスクリバー師の両親への愛、また 人をゆるす能力、そしてこの手紙を はじめ師の書物に明白に現れている 人間の弱さへの理解などを知ってい る者は、師がここで言っていること を決して実行する気はないことを、 推し量ることができるだろう。しか し、「非常にきつい言葉」を使うの

は、読者に、自分が両親から望まれ て生まれたのではないことを知った 子どもたちの、悲劇にもっと敏感に なって欲しいからである。聖ホセマ リアがこの手紙を書いたのは、いわ ゆる「性の革命」が始まる直前で あった。それ以降、避妊と堕胎の実 践は幅広く普及し、その結果、社会 に深刻な実存的・心理的問題がのし かかっている。既婚者に提示する聖 性のモデルは、夫婦間の「清い愛」 と子どもへの大きな愛を含むこと、 重大な理由がある場合を除いて、神 が送ろうと望む子どもを恐れないこ とを含むことを、聖ホセマリアは はっきりさせたいのである。(編者 注)

[93] 「この世界には黒人とカトリック信者以外いなくなるだろう」:この言葉は、この手紙が書かれた20世紀の50~60年代における、アメリカ合衆国での公民権運動の高まりという歴史的コンテクストを考慮に入れ

て理解せねばならない。その頃、ア メリカにおいて産児制限の手段が広 まっていたが、アフリカ系アメリカ 人活動家はその背後に人種差別的な 意図が隠されていると考えた。カト リック信者もそれに反対したが、そ れは倫理的理由からであった。エス クリバー師が引用するオプス・デイ のメンバーの皮肉的表現は、アフリ カ系アメリカ人とカトリック信者の 出生率の高さを嘆く人種差別主義者 と反教皇主義者の偏見を嘲笑する意 図がある。聖ホセマリアは、この機 会を利用して、人種差別主義とあら ゆる人種や宗教に対する差別の愚か さを示す。(編者注)

[94] □ - マ15·15。

[95] ガラテヤ5・15。

[96] マタイ16・24。

[97] 「1931年に形をとった」: この 出来事を神からの重要な照らしであ ると考えていたオプス・デイ創立者は、色々な時にこのことを回想した(アンドレス・バスケス・デ・プラダ『オプス・デイ創立者』〈Andrés Vázquez de Prada, El Fundador del Opus Dei, vol. I, Madrid, Rialp, 1997, pp. 388–392〉参照)(編者注)

[98] ーテサロニケ4・10-12、コロサイ3・15。

pdf | から自動的に生成されるドキュメント https://opusdei.org/ja-jp/article/tegami29/ (2025/11/29)